

目 次

目 次	… … …	1
1. 2002年度の主な活動	… … …	3
*2002年度の入館者一覧	… … …	4
2. 資料の収集・利用	… … …	5
2-1 資料の収集		
(1) 受 贈		
(2) 購 入		
(3) 寄 託		
2-2 資料の利用	… … …	6
(1) 貸 与		
(2) その他		
3. 展示活動	… … …	7
3-1 常設展示		
(1) 歴史展示		
(2) 美術・工芸展示	… … …	9
(3) 別館展示	… … …	15
3-2 特別展示	… … …	17
(1) 自主企画展		
(2) 共催展等	… … …	19
*2002年度特別展の開催状況一覧	… … …	21
(3) 特別陳列		
(4) 館外共催事業		
(5) 京都府民ギャラリー事業への協力		
3-3 映 画	… … …	22
(1) 常設上映		
(2) 特別上映・共催事業	… … …	23
(3) 映像ギャラリー常設展示		
(4) 京都府映像文化センター運営委員		
4. 調査研究活動	… … …	24
4-1 調 査		
(1) 埋蔵文化財の発掘と整理		
4-2 学芸員の活動		
(1) 博物館研究費による研究		
(2) 外部研究費・共同研究等による研究		
(3) 出講・委嘱		
(4) 学芸員の業績	… … …	25

5. 普及活動	… … …	28
5-1 出版物		
(1) 京都文化博物館研究紀要『朱雀』		
(2) 京都文化博物館年報		
(3) 展覧会図録		
5-2 講演会・音楽会		
(1) 講演会など		
(2) 音楽会	… … …	29
5-3 博物館実習	… … …	30
5-4 その他の活動		
(1) 資料閲覧室		
(2) 文化情報コーナー	… … …	31
(3) 生涯学習ボランティア		
(4) 京都文化博物館友の会		
(5) 地域との連携		
6. 国際交流	… … …	32
6-1 陝西歴史博物館友好交流事業		
7. ギャラリー事業	… … …	33
7-1 5・6階展示室		
(1) 京都文化財団展示室運営委員会		
(2) 美術・工芸作家の利用		
(3) 生涯学習的発表期間の利用	… … …	34
(4) 一般の利用	… … …	35
7-2 別館ホール		
8. 管理・運営	… … …	37
8-1 組織と職員		
(1) 組織		
(2) 京都文化財団役員		
(3) 京都文化博物館職員		
8-2 施設	… … …	38
(1) 本館関係		
(2) 別館関係		
8-3 ろうじ店舗		
9. 2002年度のあゆみ	… … …	40

1. 2002年度の主な活動

この年の自主企画展は、春には学芸第二課が「都の音色—京洛音楽文化の歴史展—」を、秋には学芸第一課が「日本最大級の風俗収集品—吉川観方と京都文化」展を開催した。ともに単なる歴史展でもなく、単なる美術展でもない、独創的な企画で、当館らしい展覧会であったが、入場者は「都の音色」展が7,777人、「吉川観方と京都文化」展が13,327人と、あまり芳しくなかった。8件の特別展の総入場者数も105,000人あまりで、前年を大きく下回る結果に終わった。それに対して、常設展示の入場者数はわずかではあるが増加した。常設展示におけるさまざまな企画の反映であろうか。

◇常設展における特別展関連企画の試み その1・美術篇 「京都の現代版画—池田満寿夫と同世代を中心として—」（4月2日～6月30日）

5月25日から6月30日まで4階特別展示室で開催した特別展「版画家 池田満寿夫の世界—黒田コレクションから—」の関連企画として、3階の常設展「京都の美術・工芸展」において、「京都の現代版画」を特集し、常設展をその時の特別展と一体に鑑賞出来るように試みた。池田満寿夫と同時期に京都で活躍した作家と、次の世代の代表的な作家8人の作品39点を紹介した。また、版画の多様な技法や制作プロセス、版画制作のための道具類も、あわせて展示した。

◇京都の美術・工芸展「京都発！ 漆のメッセージ12」の開催（7月2日～10月6日）

わが国において古い歴史を持っている漆の文化は、近年生活様式の変化などによって後退しつつある。こうした中でも、京都の漆作家たちは真摯に漆の魅力と可能性を探求し、優れた作品を制作してきている。本展は、昭和30年代以降に生まれた精鋭12人の作品を通じて、多くの人に漆の魅力を伝えようとしたもので、会期中には、出品作家全員による「漆は、必要!?—12人の提案—」というテーマでシンポジウムを開催するなど、斬新で精力的な企画であった。また、これらとは別に、京都府所蔵資料の中から、これまでの京都、そして現在の京都を代表する漆芸家たちの多彩な作品を紹介する「—所蔵品に見る—京都の漆芸」を併催した。

◇常設展における特別展関連企画の試み その2・歴史篇 「平安京出土の文字資料」（7月9日～9月1日）

7月13日から8月18日まで開催した特別展「古代日本 文字のある風景—金印から正倉院文書まで—」の関連企画として、2階の歴史展示特別陳列コーナーで「平安京出土の文字資料」を特集した。京都市埋蔵文化財研究所の協力も得て、平安京出土の墨書土器、木簡、刻印瓦などを展示した。特別展では、平安京関係資料が欠落していただけに、これを補填する企画として好評であった。

◇梅屋小学校跡地の発掘調査の終了（～8月21日）

前年度から継続して調査を進めてきた梅屋小学校跡地の埋蔵文化財発掘調査は、8月19日に現地説明会を行い、21日に全ての作業を完了した。江戸時代の遺構としては、地下室跡や建物基礎、井戸や便所跡などが検出され、鑄造関係の遺物や茶器関係の陶磁器が出土するなど活発な生活の跡が見られた。中世については、新町通に面した部分に遺構が集中しており、検出した溝は当時の町割りに関連する遺構の可能性が大きい。平安時代に関しては3基の井戸を検出したにとどまり、神祇官町に関する遺構は発見

できなかったが、軒瓦や緑釉陶器といった遺物が多く出土しており、当調査地の性格を解明するうえで重要と思われた。調査終了後、直ちに整理作業に着手した。

◇第3回世界水フォーラム開催記念「ふるさとの水と名画展」の開催（2003年2月28日～3月30日）

2003年3月16日から23日まで「第3回世界水フォーラム」が京都を中心として開催されたのに協賛して、京都府と当館は「ふるさとの水と名画展—京都府所蔵絵画から—」を特別に企画し、3階美術・工芸展示室で公開した。本展は、京都府が所蔵する「京の百景」「京の四季」「いのち賛歌」の作品群から「水」にまつわる絵画66点を選び、「Ⅰ 水のいのち／水と人のいとなみ」「Ⅱ 水辺のいきもの」「Ⅲ 山紫水明」の三部に構成した。併せてモネや北斎など、日本と西洋の著名画家による「水」に関する名作14点を「和洋古今の水の名品展」として紹介した。

◇「フレッツ・スポット」サービスのアクセス

・ポイント設置（3月24日）

西日本電信電話株式会社京都支店の呼びかけに応じて、当館のエントランスホールに「フレッツ・スポット」サービスのアクセス・ポイントを設置した。これによって当館の利用者が、当館1階のエントランスホール及び情報サービスコーナーにおいて、インターネット等にアクセスすることが可能となった。



2003年3月／第3回世界水フォーラム開催記念／「ふるさとの水と名画展」会場風景（3階美術・工芸展示室）

2002年度の入館者一覧

（単位：人）

年月	常設展			特別展			計			ギャラリー				総計
	有料	無料	計	有料	無料	計	有料	無料	計	作家	一般	別館	計	
2002.4	2,994	1,299	4,293	2,117	2,055	4,172	5,111	3,354	8,465	3,738	1,747	1,382	6,867	10,332
5	4,268	1,530	5,798	2,889	3,126	6,015	7,157	4,656	11,813	2,433	5,529	1,444	9,406	21,219
6	3,516	1,469	4,985	6,516	8,936	15,452	10,032	10,405	20,437	3,420	3,058	3,595	10,073	30,510
7	3,064	1,431	4,495	2,032	1,460	3,492	5,096	2,891	7,987	6,475	1,601	823	8,899	16,886
8	3,841	1,623	5,464	3,361	2,807	6,168	7,202	4,430	11,632	3,919	990	730	5,639	17,271
9	3,434	1,374	4,808	8,881	5,723	14,604	12,315	7,097	19,412	2,874	1,786	500	5,160	24,572
10	4,292	1,770	6,062	4,841	5,482	10,323	9,133	7,252	16,385	1,548	11,425	2,258	15,231	31,616
11	3,610	1,620	5,230	3,760	5,502	9,262	7,370	7,122	14,492	6,623	6,607	1,560	14,790	29,282
12	2,787	1,331	4,118	2,889	2,002	4,891	5,676	3,333	9,009	1,905	2,606	1,659	6,170	15,179
2003.1	2,230	1,373	3,603	7,254	5,308	12,562	9,484	6,681	16,165	3,060	1,155	800	5,015	21,180
2	3,092	1,538	4,630	1,904	3,521	5,429	4,996	5,059	10,055	1,506	5,313	600	7,419	17,474
3	4,818	2,031	6,849	7,762	5,167	12,929	12,580	7,198	19,778	6,689	5,157	1,840	13,686	33,464
年度計	41,946	18,389	60,335	54,206	51,089	105,295	96,152	69,478	165,630	44,190	46,974	17,191	108,355	273,985
1日平均	137	60	197	235	221	456								

2. 資料の収集・利用

当館の所管資料は、大きく二つに分かれる。一つを館資料、もう一つを管理資料と呼ぶ。館資料は、埋蔵文化財の発掘調査で出土した考古資料が中心で、他に若干の絵画資料や歴史資料など、限られた範囲のものである。一方、管理資料は、京都府立総合資料館所蔵資料のうち、当館が管理をする美術工芸、歴史民俗資料等の文化資料（博物館資料）をいう。これらの資料

については、当館の設立以来、その収集、管理、展示公開業務を総合資料館から委託されており、具体的には同館の収蔵庫で管理しながら、展示を京都文化博物館で行うとともに、収集・利用等についても、その業務を当館で行ってきている。

なお、2002年度末での管理資料は50,952点、寄託資料が343点、一時保管資料が491点であった。

2-1 資料の収集

(1) 受 贈

①管理資料

分野	作者	資料名	点数	分野	作者	資料名	点数	
歴史・民具		針指しほか	27	人形		雛人形段飾り一式	1	
染織	福本三木	「雨去りぬ」ほか	4	漆芸	中西宏明	「parts of future」ほか	2	
江馬コレクション		縫腋袍ほか	8,156	染織		黒縮緬地飛鶴に御所風 文様留袖ほか	2	
日本画	坂根克介	「仏母尊像」	1					
日本画	山田 伸	「去りし日」	1					
小計							8件	8,194点

(2) 購 入

種別	分野	作者	資料名	点数	分野	作者	資料名	点数	
管理資料	日本画	吉川 観方	「町娘」	1点	陶芸	坪井明日香	「饒舌な女」	1点	
	陶芸	竹中 浩	「色絵夏椿文扁壺」	1点	陶芸	八木 明	「青白磁入れ子蓋物」	1点	
小計								4件	4点

(3) 寄 託

種別	分野	件数	点数
館資料	日本画	1件	1点
	古文書	21件	22点
	典籍	20件	233点
	絵図	17件	19点
	貴重遺物	83件	501点
	一般遺物	2件	6点
	複製模型	3件	3点
	複製模本	1件	1点
	参考資料	1件	1点
	小計		149件
管理資料	日本画	6件	17点
	陶器	2件	98点
	民俗	3件	223点
	武具	1件	4点
	染織	1件	1点
	小計		13件



2002年度受贈資料
(山田伸「去りし日」)



2002年度購入資料
(竹中浩「色絵夏椿文扁壺」)

2-2 資料の利用

(1) 貸与

①館資料

分野	資料名	点数	申請者	使用目的(展覧会名)
歴史	天徳内裏歌合図	1点	石川県立歴史博物館	いしかわの歌仙絵馬
考古	西賀茂瓦窯跡出土軒瓦	2点	吹田市立博物館	常設展示
考古	西賀茂瓦窯跡出土軒瓦	2点	向日市文化資料館	常設展示
計				3件 5点

②管理資料

分野	資料名	点数	申請者	使用目的(展覧会名)
日本画ほか	奥田真子「春の気」ほか	28点	京都府文化芸術室	京都府庁内展示
日本画	原在明「蹴鞠図」ほか	6点	埼玉県立博物館	KEMARI—蹴鞠— The Ancient Football Game of Japan
郷土玩具	きせかえ絵ほか	6点	京都市久世ふれあいセンター 図書館	おもちゃ絵
陶芸	初代伊東陶山「色絵宝船置物」	1点	滋賀県立陶芸の森陶芸館	暮らしに美を求めて —陶磁器試験場の技術とデザイン—
郷土玩具	浜松張子ほか	50点	浜松市博物館	郷土玩具
陶芸	森野嘉光「塩釉三足花瓶」ほか	3点	岐阜県現代陶芸美術館	現代陶芸の100年
日本画	原在明「新嘗祭図」	1点	和泉市久保惣記念美術館	行事絵—四季の彩り—
日本画	西村五雲「仔牛」ほか	3点	財団法人松柏美術館	京都画壇花鳥画の流れ ～自然が語るもの～
日本画	狩野永岳「鬼図」ほか	2点	彦根城博物館	伝統と革新—京都画壇の華 狩野永岳—
楽器	羯鼓ほか	3点	日吉町教育委員会	中世芸能を今に伝えて —田原のカッコスリー—
日本画	土佐光武「神武天皇」ほか	2点	栃木県立美術館	近代歴史画と羽石光志
日本画	上村淳之「啼く」	1点	読売新聞大阪本社	上村淳之展
日本画	金島桂華「椿」ほか	8点	ふくやま美術館	生誕110年 金島桂華展
染織、日本画	檜扇几帳橋文様小袖ほか	12点	神奈川県立歴史博物館	四都美人装い競べ —京・大坂・江戸・名古屋—
染織	稲垣稔次郎「山くにの春」	1点	池坊短期大学むろまち美術館	京表具のせかい
陶芸	森野嘉光「大白磁彫文花瓶」ほか	2点	京都市美術館	開館70周年記念展 うるわしの京都いとしの美術館
計				16件 129点

(2) その他

種別	撮影・掲載	観覧	寄託資料—一時持ち出し					
			分野	資料名	点数	申請者	使用目的	計
館資料	68件 98点	6件	考古	デンマーク石器コレクション	21点	古代学協会	研究	2件 42点
			考古	デンマーク石器コレクション	21点	古代学協会	研究	
管理資料	23件 36点	13件 40点	民俗	祇園祭放下鉾資料	3点	放下鉾保存会	展示	3件 8点
			民俗	繫馬図絵馬	1点	子守神社	展示	
			民俗	鞍馬火祭資料	4点	鞍馬火祭保存会	祭礼	

3. 展示活動

3-1 常設展示

(1) 歴史展示

歴史の常設展示は、大きく二つの部分に分けられる。一つは京都の町の歴史の概観的な展示で、平安京以前の京都盆地の姿を示すプロローグに始まり、平安京の誕生から明治・大正までを四つのテーマに分けて展開する。

いま一つは、ある時間的な幅のなかでは位置づけることのできない文化事象から、町衆によって育まれてきた京都文化を代表する四つのテーマを選んで展示する集中展示であり、あわせてそれらが繰り広げられた場としての京都を絵画資料に見るものである。

この歴史の常設展示は、模型や映像・図表を中心に説明的に展開することを原則としているため、実物資料が大変少ない展示となっており、時折不満の声も聞かれた。その欠を補うという意図もあって、昨年度から歴史展示室の北端に展示ケースを新設して、新たに「特別陳列コーナー」を設けた。ここでは、一定のテーマを設定し、ふさわしい資料を主として館蔵資料と寄託資料の中から選んで展示している。

「特別陳列コーナー」の設置に伴い、スペースの都合上、「国際都市京都」のコーナーと「歴史情報サービス」とは廃止した。それ以外の展示は基本的には大きな変化は無いので、ここでは展示替えに関するデータのみを記す。概観展示ならびに集中展示の詳細については『京都文化博物館10年のあゆみ』(1999年)を参照されたい。

①特別陳列コーナー

◇『源氏物語』に見る季節(1) 蛩・七夕

概要：『源氏物語』は単なる物語であるばかりでなく、舞台を平安時代中期の平安京にとったため、当時の貴族の生活・宮中行事・風物詩といったことが生き生きと描かれている。重要文化財『大島本源氏物語』から、夏の風物詩として蛩と七夕が書かれている巻を展示した。

期間：2002年6月4日～7月7日

作品：『大島本源氏物語』から、「帚木」「総角」「夕顔」「薄雲」「蛩」の巻

担当：土橋 誠

◇平安京出土の文字資料（京都の考古学シリーズ②）

概要：発掘調査で見つかった文字資料は、古代史

を解明する上でも重要なものであるという認識から、特別展「古代日本 文字のある風景」の関連企画として、平安京内から出土した墨書土器・木簡などの文字資料のうち、平安時代のものに限って展示した。

期間：2002年7月9日～9月1日

作品：仮名書き和歌墨書土器、北野廃寺出土墨書土器、平安宮・京出土木簡、平安時代の刻印瓦など

担当：土橋 誠

◇江戸時代の平安京研究

概要：平安京の研究は考古学の発掘調査で格段に進歩してきたが、その元となった江戸時代京都の学者によってなされた詳細な研究成果を、裏松固禅の著した『大内裏図考證』を中心に館蔵・寄託資料等によって紹介。

期間：2002年9月3日～10月6日

作品：『平安城左右京職九条坊保図』、『大内裏図考證』、『大内裏図考證絵図』、『院宮及私第図』、『好古日録』、『好古小録』、『古瓦譜』、平安京跡出土瓦など11件101点

担当：植山 茂

◇狩野益信筆 洛中洛外図屏風

概要：金地に細密画で描く洛中洛外図とは異なり、筆墨を主に、淡い朱を混ぜて粗略な感じに描いた洛中洛外図。筆者は狩野探幽の弟子である狩野益信。右隻には誓願寺から清水寺、左隻には八幡から大徳寺までを描く。

期間：2002年10月8日～11月10日

作品：狩野益信筆「洛中洛外図屏風」

担当：大塚活美

◇誓願寺門前図屏風・天保踊図屏風

概要：誓願寺門前図は、三条寺町にある誓願寺とその周辺を描く江戸時代初期の二曲屏風。天保踊図は、江戸時代後期の天保10年に京都で流行した豊年踊を描く小屏風。

期間：2002年11月12日～12月15日

作品：「誓願寺門前図屏風」、「天保踊図屏風」

担当：大塚活美

◇雲林院跡発掘調査の成果（京都の考古学シリーズ③）

概要：淳和天皇の離宮「雲林院跡」及びその前身

「紫野院」の所在地と想定されている遺跡の、2000年に実施した発掘調査の成果についての報告展である。検出された園池遺構と汀線のかたわらに建てられた2棟の掘立柱建物などの成果を、現場写真や実測図と出土した遺物類で紹介した。

期 間：2002年12月17日～2003年3月2日
 作 品：土師器杯・高杯、白磁、青磁、緑釉・灰釉陶器、須恵器、ミニチュア土器、小型瓦、土馬など約50点。

担 当：鈴木忠司

◇鳥瞰図絵師・吉田初三郎の京都名所案内

概 要：「大正の広重」と呼ばれ一躍人気を博し、

近年また独特の描法が再評価されている吉田初三郎の鳥瞰絵図を、館蔵資料（大塚隆氏寄贈）の中から、京都関係の名所旧跡の案内図、鉄道・航路の沿線案内、企業の宣伝などの作品を選んで展示。

期 間：2003年3月4日～4月6日

作 品：『日本鳥瞰 近畿東海大絵図』、『近畿を中心とする名勝交通鳥瞰図』、『京都パノラマ地図』、『御大礼記念京都名所御案内』、『梅小路駅を中心とする京都名所御案内』、『叡山頂上一目八方鳥瞰図』、『醍醐山名所図絵』、『嵐山名所図絵』など32点

担 当：植山 茂

②展示替え（概観展示・集中展示）

展示テーマ	展示項目	資 料 名	点数	展示期間
武者の世に	京に集う	茶器（協力：門脇氏）		随時
京洛四季	京の高い	看板・暖簾・算盤箱・一斗杓・天秤（*）	5点	2002. 4.16～2002.10.20
		看板（2点）・売薬手提箱・五合杓・一升杓・糸秤（*）	6点	2002.10.22～2003. 4.20
古都飛翔	明治の洋食器	染付草花模様蓋付スプ鉢・染付草花模様小水差・染付草花模様台付盛皿（以上、幹山伝七作）／染付四季花卉模様スプ皿（2点）（三代清水六兵衛作）／染付草花模様紅茶碗（2点）（三代清風与平作）／染付草花模様皿（2点）（四代高橋道八作）（*）	9点	2002. 4.16～2002. 7.14
		染付草花模様ソース鉢・染付ブドウ酒呑（5点）（以上、和気亀亭作）／染付草花模様蓋付肉皿（2点）・染付草花模様砂糖入・染付草花模様小判形皿（以上、幹山伝七作）／染付草花模様蓋付平鉢（三代清風与平作）（*）	11点	2002. 7.16～2002.10.20
		染付草花模様紅茶碗（三代清風与平作）／染付草花模様小水差・染付模様スプ皿（2点）・染付草花模様蓋付鉢・染付草花模様台付盛皿・染付草花模様蓋付水鉢（以上、幹山伝七作）／染付四季花卉模様スプ皿（三代清水六兵衛作）（*）	8点	2002.10.22～2003. 1.19
		染付草花模様砂糖入・染付草花模様スプ皿・染付草花模様蓋付スプ鉢（以上、幹山伝七作）／染付草花模様ソース鉢・染付ブドウ酒呑み（以上、和気亀亭作）／染付草花模様皿（2点）（四代高橋道八作）（*）	7点	2003. 1.21～2003. 4.20
集中展示	宗家の地	琴の家－琴・源氏物語絵巻（複製）（*／**）	2点	2002. 6.18～2002. 9.16
		琵琶の家－楽琵琶・源氏物語絵巻（複製）（*／**）	2点	2002. 9.18～2002.12.15
		蹴鞠の家－蹴鞠（3点）・関係写本（4点）（*／**）	7点	2002.12.17～2003. 3.16
		琴の家－琴・源氏物語絵巻（複製）（*／**）	2点	2003. 3.18～2003. 6.15
	能と狂言	狂言面－小猿・延命冠者・乙（協力：茂山家）	3点	2002. 6.18～2002. 9.16
		秋草文様色無葛扇・白地胴箔紅葉文様鬘帯・赤地雛二撫子文様鬘帯・銀地秋草文様腰帯・萌黄地秋草文様色無腰帯（協力：金剛家）	4点	2002. 9.18～2002.12.15
		狂言面－武悪・福の神・白蔵主（協力：茂山家）	3点	2002.12.17～2003. 3.16
		花軍人物画葛扇・納戸地花橋文様鬘帯・松竹梅団扇二柳文様鬘帯・胴箔地紫陽花文様腰帯・納戸地藤文様色無腰帯（協力：金剛家）	5点	2003. 3.18～2003. 6.15
	匠の世界	伝統建築－多宝塔部分実大模型・写真・図面パネル（協力：伸和建設㈱）	一式	2002. 2.19～2002.10.20
		左官－壁塗衝立・模型、土壁見本、左官道具および写真・パネル（協力：南田代千治店 田代益一氏）	一式	2002.10.22～2003. 4.20
京のまつり	祇園祭長刀鉾模型（**）	1点	2002. 6.18～2002. 9.16	
	久多花笠祭花笠（*）	1点	2002. 9.18～2002.12.15	
	祇園祭月鉾模型（大）（**）	1点	2002.12.17～2003. 3.16	
	祇園祭月鉾模型（小）（*）	1点	2003. 3.18～2003. 6.15	

*（ ）内の*印の資料は京都府立総合資料館蔵（京都府京都文化博物館管理）、**印の資料は当館蔵

(2) 美術・工芸展示

◇京都の美術・工芸展《京都の現代版画—池田満寿夫と同世代を中心として—》

概要：池田満寿夫と同時期に京都で活躍した作家
と、その次の世代の代表的な版画家の作品
を紹介

期間：2002年4月2日～6月30日
作品：版画39点

分野	作品名	作者	制作年	所蔵	分野	作品名	作者	制作年	所蔵
版画	海	吉原英雄	1970年	#	版画	—Gravity—			
版画	青い部屋	吉原英雄	1970年	#	版画	・“Descended Triangle-Triangle (Black)”	井田照一	1987年	#
版画	ミラー・オブ・ザ・ミラー・N	吉原英雄	1974年	#	版画	・Well from Korma “TRAP”	井田照一	1989年	#
版画	海	吉原英雄	1977年	#	版画	Skelton in White Flower			
版画	くつしたを穿く女	吉原英雄	1984年	#	版画	Ring No 2”			
版画	アウト・オブ・タイム-24	木村光佑	1970年	#	版画	Work 1	安東菜々	1975年	#
版画	現在位置-存在 (A)	木村光佑	1971年	*	版画	Electric wire 4	安東菜々	1977年	#
版画	孤独の輪郭	木村光佑	1979年	#	版画	Work H-16	安東菜々	1985年	*
版画	アウト・オブ・タイム-81・1	木村光佑	1981年	#	版画	Work H-28	安東菜々	1987年	#
版画	リレーション-S	木村光佑	1987年	#	版画	Delta, Frostedglass,	木村秀樹	1977年	#
版画	浄夜 67	黒崎 彰	1968年	#	版画	Cellophanetape, 1			
版画	赤い闇 5	黒崎 彰	1970年	#	版画	ブラインダー 6-23-1	木村秀樹	1978年	*
版画	迷彩譜 10	黒崎 彰	1978年	#	版画	Flowers turning on	木村秀樹	1982年	*
版画	虹のアラベスク	黒崎 彰	1980年	#	版画	In Front of Mr. Shapiro's	木村秀樹	1985年	#
版画	黒の軌跡	黒崎 彰	1981年	#	版画	Man	田中 孝	1976年	*
版画	二つの時の間に 1	黒崎 彰	1984年	#	版画	Tree	田中 孝	1977年	#
版画	Surface is the Between	井田照一	1975	#	版画	Bed	田中 孝	1977年	*
	-Between Vertical and Horizon-		~76年		版画	Sofa	田中 孝	1977年	*
	・Portfolio-In front of, In back of-				版画	West Wind	田中 孝	1985年	*
	“Surface for the Paper Bag No 2”				版画	Tom, Tomato Knife	山本容子	1976年	*
版画	・“Two Stones on Paper No 5”	井田照一	1976年	#	版画	Asparagus Paradise	山本容子	1977年	*
版画	・“Paper Between Floor	井田照一	1976年	#	版画	Asparagus Guy	山本容子	1977年	*
	and Floor No 2”				版画	Fur Fur	山本容子	1980年	個人蔵
版画	・“Between on the Paper and	井田照一	1983年	#					
	on the Surface—Complex Contact								

※ #印の作品は作者蔵、*印の作品は京都府立総合資料館蔵（京都文化博物館管理）

▽併催《一所蔵品にみる一竹の工芸》

概要：京都府所蔵品の中から、京都を代表する竹
工芸作家たちの多彩な作品を紹介

期間：2002年4月2日～6月30日
作品：竹工芸13点

分野	作品名	作者	制作年	分野	作品名	作者	制作年
竹工芸	盛藍 てっせん	田中 肇斎	1969年	竹工芸	花藍 層紋	東 竹園斎	1968年
竹工芸	投網花藍	田中 肇斎	1974年	竹工芸	花藍 山懐	東 竹園斎	1969年
竹工芸	花藍 L	田中 耕司	1974年	竹工芸	華心花藍	東 竹園斎	1981年
竹工芸	層花藍	田中 耕司	1984年	竹工芸	鳳美花藍	松尾 竹峰	1972年
竹工芸	花藍 黎明	野口藍鳳斎	1973年	竹工芸	花藍 萌	松尾 竹峰	1975年
竹工芸	深窓の詩	野口藍鳳斎	1983年	竹工芸	竹茶籠	松本東公斎	1962年
竹工芸	委透文様花藍	早川尚古斎	1987年				

※ 作品はすべて京都府立総合資料館蔵（京都文化博物館管理）

◇京都の美術・工芸展《京都発！ 漆のメッセージ12》

概要：京都で活躍する若手漆芸作家12人の柔軟な
発想と漆の新たな魅力に溢れた作品を紹介

ギャラリートーク：3階美術・工芸展示室

・7月20日（土）出品者8人による

期間：2002年7月2日～10月6日

シンポジウム：別館ホール

作品：漆芸51点

・7月21日（日）「漆は、必要!?!—12人の提案—」

分野	作品名	作者	制作年	分野	作品名	作者	制作年
漆芸	風感飛翔	大町憲治	1994年	漆芸	T・B・W・H	種池仁志	1998年
漆芸	天空層響	大町憲治	1997年	漆芸	求めても…	種池仁志	1999年
漆芸	風埧勇姿	大町憲治	2000年	漆芸	Surface from Wall, or Edge	土岐謙次	1998年
漆芸	響	大町憲治	2001年	漆芸	Balloon	土岐謙次	2002年
漆芸	家と猫	川端圭介	2000年	漆芸	The part #2	土岐謙次	2002年
漆芸	猫	川端圭介	2001年	漆芸	Opener	土岐謙次	2002年
漆芸	猫	川端圭介	2002年	漆芸	Parts of future	中西宏明	1997年
漆芸	猫	川端圭介	2002年	漆芸	in my life	中西宏明	1999年
漆芸	猫	川端圭介	2002年	漆芸	Messenger-DNA	中西宏明	2000年
漆芸	猫	川端圭介	2002年	漆芸	芳生	春名淳一	1999年
漆芸	猫	川端圭介	2002年	漆芸	追憶	春名淳一	2000年
漆芸	パレスチナ I	栗本夏樹	1998年	漆芸	Seeds	春名淳一	2000年
漆芸	草の衣	栗本夏樹	1999年	漆芸	星光夜曲	村田好謙	1992年
漆芸	月の衣	栗本夏樹	1999年	漆芸	悠久	村田好謙	1994年
漆芸	華の衣	栗本夏樹	1999年	漆芸	陰影礼賛	村田好謙	1996年
漆芸	シゴロ	栗本夏樹	2000年	漆芸	悠久の刹那	村田好謙	1998年
漆芸	僧衣	栗本夏樹	2000年	漆芸	極光	村田好謙	1999年
漆芸	伯爵	栗本夏樹	2000年	漆芸	誕生譚	村田好謙	2000年
漆芸	棕櫚の空	黒飛 亘	1988年	漆芸	天空の櫃	村田好謙	2001年
漆芸	天の刻	黒飛 亘	1993年	漆芸	屍になりてー再生ー	安井友幸	2000年
漆芸	月に語りて	黒飛 亘	1999年	漆芸	角のようなかたち	安井友幸	2002年
漆芸	wind 2	田川真千子	1994年	漆芸	角のようなかたち	安井友幸	2002年
漆芸	wind 3	田川真千子	1997年	漆芸	山笑ふ	吉原嘉奈子	2001年
漆芸	悠	田川真千子	2001年	漆芸	山匂ふ	吉原嘉奈子	2001年
漆芸	独身者の輪舞	種池仁志	1996年	漆芸	山薫る	吉原嘉奈子	2001年
漆芸	柔らかな殻	種池仁志	1997年				

※ 作品はすべて作者蔵

▽併催《一所蔵品にみる一京都の漆芸》

概要：京都府の所蔵品の中から、京都を代表する漆芸作家たちの作品を紹介

期間：2002年7月2日～10月6日

作品：漆芸39点

分野	作品名	作者	制作年	分野	作品名	作者	制作年
漆芸	日月山水 宙	伊藤 裕司	1989年	漆芸	パネル 未来	中村 久司	1974年
漆芸	日月山水	伊藤 裕司	1992年	漆芸	耀貝飾箱潮文	服部 峻昇	1987年
漆芸	花の筥	伊藤 邦	1981年	漆芸	織貝飾箱 純陽	服部 峻昇	1992年
漆芸	漆盛器	上原 清	1973年	漆芸	乾漆六稜扁壺	番浦 鴻蔵	1977年
漆芸	漆線文様鉢	岡田 一木	1967年	漆芸	潮文朱鉢	番浦 省吾	1964年
漆芸	無限なる宇宙	川瀬 厚	1978年	漆芸	パネル つばさ	東端 真笹	1966年
漆芸	朱塗乾漆花器	久保 金平	1964年	漆芸	草の露 硯箱	東端 真笹	1972年
漆芸	黒象花器	久保 金平	1965年	漆芸	紅華文盆	平石 晃祥	1965年頃
漆芸	壁面裝飾額 紋章	小林 博	1968年	漆芸	盆	平舘 嘉邦	1960年頃
漆芸	漆屏風 游2000	下出祐太郎	1999年	漆芸	漆屏風 夢	冬木偉沙夫	1989年
漆芸	梅月菓子器	鈴木 表朔(二代)	1970年	漆芸	黄昏Ⅱ	松本 正彦	1983年
漆芸	透胎 華の函	鈴木 雅也	1991年	漆芸	きんま彫大甕わらび	眞鍋 光男	1974年
漆芸	乾漆 あじさいの函	鈴木 雅也	1995年	漆芸	乾漆扁壺	眞鍋 光男	1975年
漆芸	空間の接点	谷井 伸寛	1978年	漆芸	宝珠飾筥	三木 表悦(二代)	1986年
漆芸	百合花色紙短冊筥	堂本 漆軒	1955年	漆芸	彩画 巖	三木 表悦(三代)	1988年
漆芸	花器	中 清太郎	1972年	漆芸	交錯飾棚	水内 杏平	1959年
漆芸	玩具漆絵大甕	中村 宗哲(十一代)	1976年	漆芸	夔州文蒔絵朱手箱	水内 杏平	1985年

漆 芸	顔	水谷 雅	1970年	漆 芸	雄朱石佛硯箱	山田 榮全(二代)	1971年
漆 芸	彩漆平卓	南 祥輝	1970年	漆 芸	乾漆 Bright Ocean	山田 豊子	1996年
漆 芸	乾漆盛器	南 祥輝	1978年				

※ 作品はすべて京都府立総合資料館蔵（京都文化博物館管理）

◇京都の美術・工芸展《風景画—現実とイメージの交錯》

概 要：現実とイメージの間をたゆたう風景画、風景表現の豊かなふくらみを、京都府所蔵の日本画・洋画作品で紹介

期 間：2002年10月8日～2003年1月13日

作 品：日本画28点、洋画9点

分野	作品名	作者	制作年	備 考	分野	作品名	作者	制作年	備 考
日本画	雲母坂	麻田 辨自	1979年		洋 画	ブレインカの城塞都市	伊谷 賢蔵	1964年	
日本画	花咲く丘	浅野 均	1984年		洋 画	郷愁	今井 憲一	1953年	
日本画	山の灯	池田 遙邨	1975年		洋 画	景観80 No.5	小牧源太郎	1980年	小牧ますの氏寄贈
日本画	野	岩倉 寿	1974年		洋 画	赤山	齋藤 真成	1991年	
日本画	鴨川の夕立	宇田 荻邨	1954年	*2	洋 画	幻想稲荷山四季	芝田 米三	1985年	
日本画	湿	扇 敏之	1978年		洋 画	戸外静物	須田国太郎	1941年	
日本画	曇り日の海	小野 竹喬	1959年	*1	洋 画	〈辺土〉のエスキース	田中佐一郎	1938年	田中寿々氏寄贈
日本画	竹生島	下保 昭	1975年		洋 画	街路樹の中の女	中村 善種	1986年	中村美千代氏寄贈
日本画	妙高	河合 健二	1980年		洋 画	校倉と瓦と柿	福井 勇	1967年	福井恵美氏寄贈
日本画	湖北晴日	久保 嶺爾	1970年		日本画	ある日	市原 義之	1972年	
日本画	風景	国府 克	1967年		日本画	丘	北野 治男	1982年	
日本画	赤富士	小松 均	1980年		日本画	夢の中で(ゆくえ)	竹内 浩一	1970年	
日本画	雪の村	高越 甚	1969年		日本画	定家	中野 弘彦	1978年	
日本画	暮れなずむ蘇州	堂本 元次	1981年		日本画	方丈記	中野 弘彦	1978年	
日本画	冬田	中路 融人	1974年		日本画	静物と風景	樋口 辰志	1970年	
日本画	岬の月	濱田 昇児	1988年		日本画	夕映	曲子 明良	1971年	
日本画	麁園	正井 和行	1984年		日本画	風景	松尾 冬青	1968年	
日本画	天橋立	山岸 純	1981年	山岸セツ子氏寄贈	日本画	生滅	三輪 晃久	1978年	
日本画	聖域	山本 知克	1975年						

※ *1は前期のみ、*2は後期のみの展示。前期：10月8日（火）～11月17日（日）、後期：11月19日（火）～1月13日（月）

※ 作品はすべて京都府立総合資料館蔵（京都文化博物館管理）

▽併催1《一工芸にみる一動物のデザイン》

概 要：京都府の所蔵品の中から、動物たちのイメージをデザイン化させた工芸作品を紹介

後期 12月10日～2003年1月13日

作 品：染織4点、陶芸24点、金工3点

期 間：前期 10月8日～11月4日

分野	作品名	作者	制作年	備 考	展示期間
染 織	白身碧鬚百獣王躍舞図(紋織屏風)	加納 嘉一郎	1955～65年		全期
染 織	トリ	岸田 竹史	1977年		全期
染 織	游	佐野 猛夫	1979年		全期
染 織	緑地孔雀文(糸目糊友禅染衝立)	竹島 初太郎	1955年		全期
陶 芸	閑日	市川 廣三	1981年		後期
陶 芸	雉鳥香合	五代 清水六兵衛	1926年	清水久仁子氏寄贈	全期
陶 芸	三彩孔雀置物	五代 清水六兵衛	1929年	六代 清水六兵衛氏寄贈	前期
陶 芸	猿香合	五代 清水六兵衛	1919年	清水菊子氏寄贈	全期
陶 芸	鶉置物	五代 清水六兵衛	1923年	七代 清水六兵衛氏寄贈	全期
陶 芸	青華殿香合	五代 清水六兵衛	1924年	清水久仁子氏寄贈	全期
陶 芸	狸置物	五代 清水六兵衛	1929年	七代 清水六兵衛氏寄贈	全期
陶 芸	玄窯牧牛花瓶	六代 清水六兵衛	1958年	清六陶苑寄贈	全期
陶 芸	駱駝文花瓶	六代 清水六兵衛	1953年	清六陶苑寄贈	全期

陶 芸	茶碗魚	橋部 彌弌	1967年	大澤素子氏寄贈	全期
陶 芸	茶碗母	橋部 彌弌	1978年	大澤素子氏寄贈	全期
陶 芸	ふくろう花瓶	新開 寛山	1991年		全期
陶 芸	フラミンゴ	高山 泰造	1940年	高山泰一氏寄贈	全期
陶 芸	兎	高山 泰造	1972年	高山泰一氏寄贈	全期
陶 芸	虎	高山 泰造	1973年	高山泰一氏寄贈	全期
陶 芸	鼠と卵	高山 泰造	1970年	高山泰一氏寄贈	全期
陶 芸	花瓶「牛」	寺池 静人	1969年		全期
陶 芸	織部刻印華魚文扁壺	西川 實	1985年		全期
陶 芸	鳥花瓶	藤平 伸	1968年		全期
陶 芸	鶉	船津 英治	1945～50年	船津良子氏寄贈	全期
陶 芸	洋犬	船津 英治	1945～50年	船津良子氏寄贈	全期
陶 芸	色絵象香炉	道林 俊正	1945年	道林藤氏寄贈	全期
陶 芸	鶴置物	初代 宮永東山	明治末～大正時代	安芸俊男氏寄贈	全期
陶 芸	塩釉花瓶	森野 嘉光	1971年	森野秋氏寄贈	全期
金 工	鷺姫	加藤 宗巖	1977年		全期
金 工	望郷	加藤 宗巖	1967年		全期
金 工	駿駒文置物	小林 尚	1973年		全期

※ 前期：10月8日（火）～11月17日（日）、後期：11月19日（火）～1月13日（月）

※ 作品はすべて京都府立総合資料館蔵（京都文化博物館管理）

▽併催2 《谷口良三遺作展—釉彩の美を求めて—》

概 要：日展を中心に活躍した京都の陶芸作家谷口良三氏の初期から晩年までの作品を紹介

ギャラリートーク：3階美術・工芸展示室
・11月10、24日 谷口正典

期 間：2002年11月6日～12月8日

（陶芸家、谷口良三氏次男）

作 品：陶芸54点

分 野	作品名	制作年	所蔵	分 野	作品名	制作年	所蔵	
陶 芸	染付紫陽花花器	1947年	*	陶 芸	律	1976年	中井辰昭氏蔵	
陶 芸	白釉遊魚	1948年		陶 芸	陽春	1978年		
陶 芸	白釉線文花器	1961年		陶 芸	雪影	1979年		
陶 芸	萌釉蓮穂	1962年		陶 芸	瞬花	1981年		
陶 芸	白釉文花瓶	1963年		陶 芸	碧の調	1983年		
陶 芸	白釉印花花瓶	1964年		陶 芸	シルクロードⅠ	1983年		
陶 芸	黄釉刻文花器	1964年		陶 芸	シルクロードⅡ	1983年		
陶 芸	白釉魚泳	1964年		陶 芸	樹凜	1985年		
陶 芸	歎喜	1965年		陶 芸	瑠璃手鳳凰文汲出碗	1985年		
陶 芸	碧象	1965年		陶 芸	碧釉香合	1987年		
陶 芸	赫釉線文花器	1966年		陶 芸	矢車茶碗	1988年		
陶 芸	蒼釉井生	1967年		陶 芸	連峰	1989年		
陶 芸	震	1967年		陶 芸	湧雲	1990年		
陶 芸	碧晶花瓶	1967年		陶 芸	碧釉香炉	1990年		
陶 芸	碧光	1968年		陶 芸	碧燦香炉	1990年		
陶 芸	碧蝶	1969年		陶 芸	碧釉香炉	1990年		
陶 芸	碧燦鉢	1970年		陶 芸	湖	1991年		
陶 芸	籬	1971年		陶 芸	碧釉茶碗	1991年		
陶 芸	七種天目茶碗	1971年		陶 芸	紅彩飾壺	1991年		嶋谷摂氏蔵
陶 芸	蕾	1972年		陶 芸	樹芳水指	1991年		谷口寛和氏蔵
陶 芸	陵峰	1973年		陶 芸	遊韻	1992年		
陶 芸	蒼韻	1974年		陶 芸	花梨釉茶碗	1992年		
陶 芸	赫釉花瓶	1974年		陶 芸	艶飾壺	1992年		京都新聞社蔵
陶 芸	昇	1975年		陶 芸	煌彩飾壺	1993年		朝日新聞社蔵
陶 芸	朋友	1976年		陶 芸	光輝	1994年		

陶芸	陽炎	1994年	陶芸	湯呑	制作年不詳
陶芸	夕照	1995年	陶芸	湯呑	制作年不詳
陶芸	光明	1996年	陶芸	酒器	制作年不詳
陶芸	湯呑	制作年不詳	陶芸	食器	制作年不詳
陶芸	光明	1996年			

※ *は京都府立総合資料館蔵（京都文化博物館管理）、とくに表記のないものは遺族所蔵作品

◇京都の美術・工芸展《一京都府所蔵による一京の人形》

概要：京都府所蔵品から御殿飾りの雛人形、節句人形、衣裳人形、賀茂人形などを紹介

期間：2003年1月16日～2月19日

作品：人形34点

分野	作品名	制作年	備考
人形	御殿飾り雛人形	大正時代	小松きよ氏寄贈
人形	段飾り雛人形	江戸～昭和時代	佐々木泰子氏寄贈
人形	段飾り雛人形	昭和9年	津田喜久子氏寄贈
人形	古今雛	明治32年	長澤忠一郎氏寄贈
人形	古今雛	天保10年	西村大治郎氏寄贈
人形	古今雛	江戸時代後期	吉川観方コレクション
人形	武者人形「豊臣秀吉」「加藤清正」「片桐且元」	明治18年	西村大治郎氏寄贈
人形	武者人形「大将と従者」	江戸時代後期	水内杏平氏寄贈
人形	武者人形「大将と旗持」	江戸時代後期	宮下はる氏寄贈
人形	武者人形「若武者」	江戸時代中期	吉川観方コレクション
人形	武者人形「金時と熊」	明治時代	吉川観方コレクション
人形	衣裳人形「文官礼服」「武官礼服」	明治時代	吉川観方コレクション
人形	衣裳人形「傘持ち婦人」	明治時代	堂本元次氏寄贈
人形	衣裳人形「娘立姿」	明治時代	吉川観方コレクション
人形	衣裳人形「娘座姿」	明治時代	吉川観方コレクション
人形	竹田人形「男立（瓢箪持ち）」	江戸時代末期	吉川観方コレクション
人形	竹田人形「女立（潮汲み）」	江戸時代末期	吉川観方コレクション
人形	竹田人形「武者（旗持ち）」	江戸時代末期	堂本元次氏寄贈
人形	三折人形「振袖娘」	明治時代	吉川観方コレクション
人形	三折人形「童女」	明治時代	吉川観方コレクション
人形	三折人形「童女」	明治時代	吉川観方コレクション
人形	三折人形「童女（裸）」	江戸時代後期	吉川観方コレクション
人形	賀茂人形「犬に乗る翁」「座る童子」「座る翁」「人形使い」	江戸～明治時代	堂本元次氏寄贈
人形	賀茂人形「大黒」「福祿寿」「公家」「武家」「町人」「這子」	江戸～明治時代	吉川観方コレクション
人形	一文雛人形「御殿飾り一文雛」	江戸時代末期	吉川観方コレクション
人形	芥子人形「芥子雛」	江戸時代末期	吉川観方コレクション

※ 作品はすべて京都府立総合資料館蔵（京都府京都文化博物館管理）

▽併催《池大雅の筆跡一書・書簡・絵画一》

概要：池大雅の絵画と書、書簡（手紙）をあわせて展示し、大雅の筆跡を紹介

期間：2003年1月16日～2月19日

作品：日本画10点、書13点、その他1点

部門	作品名	作者	部門	作品名	作者
書	金山	池大雅	書	和歌懐紙「詠松退年友和歌」	池大雅
書	獨楽園之記	池大雅	書	書簡（あさり貝礼状）	池大雅
書	唐詩細楷	池大雅	書	書簡（軒号宜春のすすめ）	池大雅
書	芝草之詩	池大雅	日本画	巫峡山水図	池大雅
書	杜甫「江亭」	池大雅	日本画	高士訪隠図屏風	池大雅
書	蘭亭之詩	池大雅	日本画	蕙石図（指頭図）	池大雅
書	般若心經	池大雅	日本画	天産奇葩図	池大雅
書	和歌「桜」	池大雅	日本画	蕙石図	池大雅

日本画	墨竹図	池 大雅	書	泉堂之偈	池 大雅
日本画	墨菊図	池 大雅	日本画	天産奇葩図巻	* 池 大雅
日本画	王羲之書扇図	池 大雅	書	看板「家方」下書	* 池 大雅
日本画	張果老図	池 大雅		池大雅使用竹筆	* 池 大雅

※ *印は池大雅美術館蔵、とくに表記のない作品は京都府立総合資料館蔵（京都文化博物館管理）

◇第3回世界水フォーラム開催記念《ふるさとの水と名画展—京都府所蔵絵画から—》

概要：第3回世界水フォーラムが2003年3月16日 から23日まで京都を中心に開催されるのを記念して、「京の百景」（1973年）、「京の四季」（1986年）、「いのち賛歌」（1992年）といった京都府所蔵の作品群の中から、「水」にまつわる66点の絵画を取り上げて、「ふるさとの水と名画展」とした。

期間：2003年2月28日～3月30日
作品：日本画55点、洋画11点

分野	作者	作品名	備考	分野	作者	作品名	備考
日本画	池田 遙邨	大文字の送り火	京の百景	洋画	伊東 俊平	冠島	京の四季
日本画	磯田又一郎	京の家並みと横丁	〃	日本画	上村 淳之	千鳥	〃
日本画	猪田 青以	木屋町と高瀬川	〃	日本画	大沼 憲昭	求鮎図	いのち賛歌
日本画	今井 守彦	大敷綱	〃	日本画	北野 治男	丹頂	〃
日本画	宇田 裕彦	賃船の水車（未完）	京の四季	日本画	鹿見 喜陌	気	〃
日本画	大日躬世子	三条大橋	京の百景	日本画	竹内 浩一	忘人	〃
日本画	大野 俊明	二条城緑雨	京の四季	日本画	中野 嘉之	白鷺	〃
洋画	大淵 陽一	洛北の雪	〃	日本画	西内 利夫	冠島（おおみずなぎどり）	京の百景
日本画	岡崎 忠雄	菖蒲	いのち賛歌	日本画	八田 哲	朝の川	いのち賛歌
日本画	奥村 厚一	奈良海岸	京の百景	日本画	本多 功身	末枯どき	〃
日本画	小野 竹喬	鴨川夜景	〃	日本画	正井 和行	堂	〃
日本画	梶原緋佐子	鴨川の夕涼み	〃	日本画	三谷 青子	魚	〃
日本画	川島 浩	深泥池	〃	日本画	村田 茂樹	大山椒魚・芹生	〃
日本画	久保 頼爾	春山	いのち賛歌	日本画	吉村 和起	島に帰る（オオミズナギドリ）	京の四季
洋画	小牧源太郎	大仙院の石庭（盛砂）	京の四季	日本画	麻田 辨自	桐尾	京の百景
日本画	小松 均	八瀬	京の百景	洋画	芦田 芳生	清滝川	京の四季
日本画	佐々木邦彦	大江山連峰	〃	日本画	岩倉 寿	笠置	京の百景
日本画	澤 宏勲	丹後立岩	〃	日本画	岩澤 重夫	北山春霞	いのち賛歌
洋画	田中 孝	丹後の海	京の四季	日本画	上原 卓	宇治川	京の百景
洋画	鶴田 憲次	木津川（The Ground）	〃	日本画	宇田 荻邨	嵐山	〃
日本画	堂本 印象	吾寺	京の百景	日本画	下保 昭	北山連峰	〃
洋画	中井 浩一	芹生の流れ	京の四季	日本画	河合 健二	修学院離宮	京の四季
洋画	中野 鷹二	YUHIGAURA (Play Beach)	〃	日本画	岸田 蒼坪	長岡天神（つつじ）	京の百景
日本画	西野 陽一	猿橋	いのち賛歌	日本画	国府 克	丹後松島	〃
日本画	丹羽 尚子	下鴨神社三井社	京の四季	日本画	堂本 元次	大澤池	〃
日本画	箱崎 睦昌	春光	〃	日本画	濱田 昇児	大野溪谷	京の四季
洋画	橋本 房男	早春賦（中書島の外輪船）	〃	日本画	林 潤一	嵐山渡月	〃
日本画	樋口富麻呂	南座顔見世	京の百景	日本画	藤田 孝正	桂川	〃
日本画	広本 進	空也の滝	京の四季	日本画	水野 深草	浄瑠璃寺	京の百景
日本画	曲子 光男	瑠璃溪	京の百景	日本画	三輪 晃久	修学院離宮	〃
洋画	三尾 公三	嵯峨野幻想	京の四季	日本画	武藤 彰	龍安寺	〃
日本画	山本 知克	雪の二条駅	〃	日本画	山岸 純	広沢の池	京の四季
日本画	磯部 茂樹	金魚	いのち賛歌	洋画	山添 耕治	桂川の愛宕山	〃

※ 「京の百景」は京都府立総合資料館蔵（京都文化博物館管理）、「京の四季」「いのち賛歌」は京都府所蔵

▽併催《和洋古今の水の名品展》

概要：日本と西洋の著名画家による「水」の名作を紹介
期間：2003年2月28日～3月30日
作品：日本画5点、洋画2点、版画7点

分野	作者	作品名	制作時期	所蔵	備考
日本画	池 大雅	柳下童子図屏風	江戸時代中期	京都府立総合資料館（京都文化博物館管理）	重要文化財
日本画	円山 応挙	雄波雌波図屏風	江戸時代中期	妙法院	
日本画	竹内 栖鳳	しぐるる池	昭和16年	西芳寺	
日本画	上村 松園	蟹気楼	明治33年頃		
日本画	福田平八郎	雨	昭和28年	東京国立近代美術館	
洋画	ウィリアム・ターナー	ケズウィック	1801年		
洋画	クロード・モネ	睡蓮	1907年	アサヒビール大山崎山荘美術館	
版画	葛飾 北斎	富嶽三十六景 神奈川沖浪裏	江戸時代後期	平木浮世絵美術館	
版画	葛飾 北斎	富嶽三十六景 甲州石班澤	江戸時代後期	太田記念美術館	
版画	葛飾 北斎	諸国瀧廻り木曾路ノ奥阿弥陀ヶ瀧	江戸時代後期	太田記念美術館	
版画	歌川 広重	東海道五十三次 庄野	江戸時代後期		
版画	歌川 広重	近江八景 唐崎夜雨	江戸時代後期	大津市歴史博物館	
版画	歌川 広重	名所江戸百景 大はしあたけの夕立	江戸時代後期	平木浮世絵美術館	
版画	喜多川歌麿	橋下男女魚釣 *	江戸時代中期	平木浮世絵美術館	重要美術品

※ *印の作品のみ3月23日（日）までの展示

(3) 別館展示

① 東 室

◇第46回 2002年6月18日～9月8日 計51点（前期：6/18～7/28、後期：7/30～9/8）

テーマ	資料名・作品名（作者）	期間
1920・30年代の京都	第一回国勢調査記念硯笥／日本労働総同盟京都連合会旗／昭和大礼賜饌器物／御大典奉祝用土師盃／大礼記念絵葉書／大礼記念京都案内図／関西大風水画報 ほか	全期
再考伏見人形Ⅱ 縁起や説話の、幸せを招くもの達 納涼図	天神／布袋／恵比寿／大黒／福祿寿／弁才天／海女／福助／お多福／徳吸ちよろ／お福ちよろ／饅頭喰い／熊抱え金時／打出小槌乗り鼠／俵牛／牛車／富士と龍／宝船／米蔵 四条河原納涼図（横山華溪）／四条河原納涼図（紀広成）／河原納涼図（雪洞）／納涼美人図（三島上龍）／舞妓納涼図（吉原真龍）／夏美人図（歌川春貞）／花洛細見図／四条河原納涼図（垣内雲嶺）	全期 前期
明治の大和絵師・榊原文翠	源隆国著今昔物語図／文覚修行図／菅原道真像／熊野清水詣図／武内宿禰像／賢女図	後期

◇第47回 2002年9月10日～12月8日 計71点

テーマ	資料名・作品名（作者）	期間
住まいの民具	手箒／屑籠／落ち葉掻き／花生け／鞆掛け／天井車／土蔵用鍵／鼠取り／天鋤／木鋸／円座	全期
照明用具	松台／燭台／行灯／箱提灯／ランプ／カンテラ／手燭／ふく提灯	全期
再考伏見人形Ⅲ 土人形の本家「伏見人形」	饅頭喰い／俵牛／熊金／天神／布袋／恵比寿／福助／お多福 ほか	全期
再考伏見人形Ⅲ 土人形ところどころ	伏見人形／花巻人形／堀人形／今戸人形／乙川人形／小幡人形／博多人形／佐土原人形／古賀人形 ほか	全期

◇第48回 2003年3月11日～6月8日 計60点

テーマ	資料名・作品名（作者）	期間
川や池の漁具	やす／じゃことり／あんこ／鷹じんど／流し針／うなぎいどこ／どじょうもんどり／うなぎもんどり／もんどり／かけ／投網	全期
京の郷土玩具	伏見人形 天神／伏見人形 布袋／伏見人形 俵牛／吉田神社の節分面／鞍馬の竹虎ほか	全期
伊予絁	木綿地井桁に花菱模様裂地／寿文字入亀甲に松模様裂地ほか	全期
石皿	柳図石皿／楓図石皿／沢瀉石皿／花図石皿	全期

②西 室

a. 世界の石器

- ・猿人の石器—5点
- ・原人の石器—5点
- ・旧人の石器—8点
- ・北ヨーロッパ新石器時代の石器—17点
- ・大分県宮地前遺跡出土の石器—24点

b. 青森県石亀遺跡の縄文土器

- ・土器—24点
- ・石製品—7点

c. 平安京跡出土瓦—93点

※詳細については『京都文化博物館10年のあゆみ』
(1999年)を参照されたい。

3-2 特別展示

(1) 自主企画展

◇都の音色—京洛音楽文化の歴史展—

会 期：2002年4月6日～5月12日（32日間）

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）

入場料：一般1,000円 大高生700円 中小400円

特別鑑賞日：4月5日

主 催：京都府、京都文化博物館、京都新聞社、NHK京都放送局

後 援：京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都商工会議所、京都府観光連盟、京都市観光協会、平安建都1200年記念協会、歴史街道推進協議会、KBS京都

担当者：植山 茂、鈴木忠司

概 要：永く都であった京都においては、文学や絵画・彫刻・工芸などの芸術作品が、各時期に最先端であり最高水準のものがつくられた。しかも新しいものが古くからのものにすべて取って代わるのではなく、互いに影響・触発をしつつ共存してきた。芸術文化的な活動の点で、音楽・芸能もまた同様で、京都では日本音楽の各分野のものが生まれ発展し、そして伝承されてきた地である。本展では、音楽をつくりだす楽器・楽譜、演奏の記録、さらに音楽を題材にした絵画・彫刻・文学作品、歌詞を記す書跡などの展示を通して、京都における古代から近代にいたる音楽文化の歴史をたどり、日本の音楽がどのように多様化し豊かになってきた

のか、また各時代の社会にどのように享受されていたかを紹介する。

作 品：神楽和琴秘譜（国宝）、琴歌譜・五鈷鈴・草花文馨・声明口伝・豊国祭礼図屏風（以上、重要文化財）、梅ヶ畑遺跡出土銅鐸（京都府指定文化財）、嵯峨本謡本・平家琵琶（以上、京都市指定文化財）、和琴・舞絵（信西古楽図）・雅楽器・三五要録・楽家録・妙音天像・十二ヶ月都風俗図巻・北野神社祭礼絵巻・七弦琴・天徳内裏歌合図・能管（銘夜関）・邸内遊楽図屏風・宴曲抄上・歌舞伎図屏風・三味線をひく太夫図・八重崎検校図・宗左流尺八手数併唱歌目録・俗箏・三味線・胡弓・糸竹初心集・歌曲時習考・月琴・清楽琵琶・天保踊図屏風・小学唱歌集初編・大正琴など153件、約370点

入場者：7,777人（1日平均243人）

講演会：別館ホール

・4月29日「京の近世邦楽」

久保田敏子氏（京都市立芸術大学教授）

・5月4日「民俗にみる日本芸能史」

植木行宣氏（京都学園大学教授）

演奏会：別館ホール

・4月13日「御神楽」

平安雅楽会

・4月20日「祇園田楽」

祇園田楽保存会

・4月27日「京都発祥の地歌箏曲」

社団法人 京都當道会

・5月3日「都ゆかりの江戸長唄」長唄みのり会



2002年4月「都の音色」展会場風景
（4階特別展示室）



2002年10月「吉川観方と京都文化」展陳列状況
（4階特別展示室）

◇日本最大級の風俗収集品—吉川観方と京都文化

会 期：2002年10月22日～12月1日（36日間）

休館日：月曜日（但し11月4日は開館、5日は休館）

入場料：一般1,000円 大高生700円 中小生400円

特別鑑賞日：10月21日

主 催：京都府、京都文化博物館、京都新聞社、日本経済新聞社

後 援：京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都商工会議所、京都府観光連盟、京都市観光協会、平安建都1200年記念協会、歴史街道推進協議会、NHK京都放送局、KBS京都、エフエム京都

担当者：藤本恵子・野口 剛・洲鎌佐智子

概 要：吉川観方（本名賢次郎、1894～1979）は、京都に生まれ、幼い頃より書画に親しむ才気煥発な少年だった。京都府立第一中学校をへて京都市立絵画専門学校に入学したのは20歳の頃。浮世絵や芝居に傾倒し、卒業と同時に松竹合名会社の舞台意匠顧問として時代考証に携わった。そこで得た給料を資金源に彼の収集が本格的に始まったのである。人々の生活文化を語る風俗資料には、公家・武家・町方と、それぞれ好みの異なった多種多様なものが見られる。特に伝統文化と高度な技の息づく京都では、洗練された衣裳や装身具などがたくさん作られたが、これらを数多く収集し、その使い方のおもしろさをリアルに再現しようとした人物こそ吉川観方である。本展は、画家であり風俗研究者として活躍した吉川観方の人物像と、彼が生涯にわたって集めた約3万点におよぶ日本最大級の風俗収集品を、京都の伝統文化との関わりを軸に紹介するものである。開催にあたって、観方コレクションを収蔵する京都府立総合資料館をはじめ、奈良県立美術館、福岡市博物館の協力のもと、「吉川観方」の全貌に迫る初の試みとなった。

展覧会の構成と主な作品：

第Ⅰ章 吉川観方の足跡

「入相告ぐる頃」吉川観方（大正7年）、

「観方創作版画 第巻集」吉川観方（大正14年）ほか

第Ⅱ章 観方流収集品の活用法

「邸内遊楽図屏風」（江戸時代）、「鬱金平絹地扇面松竹菊文様振袖」（江戸時代）、「太夫禿図」鳥居清倍（江戸時代）、「観桜美人図」祇園井特（江戸時代）、「萌黄縹子地稲妻龍文様打掛」（江戸時代）、「いでゆの雨」梶原緋佐子（昭和6年）ほか

第Ⅲ章 収集の精華

「衣通姫図」西川祐信（江戸時代）、「太夫雪見図」山口素綱（江戸時代）、「付喪神図」伊藤若冲（江戸時代）、「紅縮緬地几帳檜扇文様振袖」（江戸時代）、「白紗綾地雲取風景文様小袖」（江戸時代）ほか

第Ⅳ章 舞台・映画・祭礼との関わり

月形半平太ポスター（衣笠貞之助監督作品）、染織祭の行列に着用された復元衣裳とその原本ほか

以上、前・後期で大半を展示替えて総数約240件

入場者：13,327人（1日平均370人）

講演会：別館講義室

・10月27日「吉川観方コレクションの特色

—観方先生の人物像—

切畑 健氏（大手前大学教授）

関連行事：別館ホール

・11月10日「宮廷装束着装実演会」

山科言泰氏（衣紋道研究会京都支部長）

協力：社団法人霞会館衣紋道研究会京都支部

列品解説：4階会場

・11月24日

藤本恵子（当館学芸員）

吉川観方考証による時代劇映画上映：

3階映像ホール

・11月14・16日『忠臣蔵』

（1932年、松竹下加茂作品／監督：衣笠貞之助）

・11月15・17日『京洛の舞』

（1942年、松竹下加茂作品／監督：野村浩将）

(2) 共催展等

◇版画家 池田満寿夫の世界

—黒田コレクションから—

会 期：2002年5月25日～6月30日（32日間）

休館日：月曜日

入場料：一般1,000円 大高生700円 中小生400円

特別鑑賞日：5月24日

主 催：京都文化博物館、日本経済新聞社、京都新聞社

後 援：京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都商工会議所、京都府観光連盟、京都市観光協会、平安建都1200年記念協会、歴史街道推進協議会、NHK京都放送局、KBS京都、エフエム京都

担当者：長舟洋司・山本俊介

概 要：20世紀が生んだ日本を代表する版画家・池田満寿夫（1934～97）が制作した版画をはじめ、油彩画、水彩画、フロタージュなど、生涯の作品の全容を紹介する展覧会。作家の両親の主治医であった黒田惣一郎氏のコレクションから出品。

作 品：「まひるの人々」（1955）、「マノン」（1960）、「化粧する女」（1964）、「ブダペストからの自画像」（1968）、「座せるスフィンクス」（1970）、「陽光のように」（1981）など約200点

入場者：17,862人（1日平均558人）

トーク&演奏会：別館ホール

・6月8日「池田満寿夫の遺したもの」

佐藤陽子氏（ヴァイオリニスト）

対 談：

・6月22日「池田満寿夫を語る」

吉原英雄氏、山本容子氏（ともに版画家）

◇古代日本 文字のある風景

—金印から正倉院文書まで—

会 期：2002年7月13日～8月18日（32日間）

休館日：月曜日

入場料：一般1,000円 大高生700円 中小生400円

特別鑑賞日：7月12日

主 催：京都文化博物館、朝日新聞社

特別協力：国立歴史民俗博物館

後 援：文化庁、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都商工会議所、京都府観光連盟、京都市観光協会、平安建

都1200年記念協会、歴史街道推進協議会、NHK京都放送局、KBS京都

担当者：土橋 誠

概 要：我が国の文字文化の発生と定着時期を扱った展覧会。我が国に漢字という外国の文字が入ってきてから、その文字を使って日本語を表記し、日本語の文字として利用するまでの歴史を、日本各地で出土した木簡・墨書土器をはじめ、奈良東大寺の正倉院に伝わった正倉院文書の複製品などを通じて展示した。

作 品：貨泉・山辺郡印（以上、重要文化財）、金印「漢委奴国王」・長屋王家木簡・正倉院文書（以上、複製）など約300点

入場者：8,718人（1日平均272人）

講演会：別館ホール

・8月3日「古代日本の文字文化」

東野治之氏（奈良大学教授）

◇平山郁夫コレクション

ガンダーラとシルクロードの美術

会 期：2002年8月31日～10月9日（34日間）

休館日：月曜日（祝日の場合はその翌日）

入場料：一般1,000円 大高生700円 中小生400円

特別鑑賞日：8月30日

主 催：京都文化博物館、朝日新聞社

後 援：京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都商工会議所、京都府観光連盟、京都市観光協会、平安建都1200年記念協会、歴史街道推進協議会、NHK京都放送局、KBS京都、エフエム京都

担当者：長舟洋司・山本俊介



2002年8月30日 開会式で挨拶をする岡本道雄館長（「ガンダーラとシルクロードの美術」展／4階特別展示室）

概要：日本画家・平山郁夫が収集した古美術品の中から、ガンダーラ仏教彫刻を中心にシルクロードをめぐる東西交流の文化遺産を精選し出品した。

作品：「仏陀立像」、「初転法輪の準備」、「婦人胸像」、「コイン（アレクサンダー3世）」、「連珠双鳥文錦靴下」、「婦人俑」、「打鞠女子騎馬俑」など約220点

入場者：22,966人(1日平均675人)

◇没後三十年 川端康成一文豪が愛した美の世界

会期：2002年12月17日～2003年1月19日(24日間)

休館日：12月24日、28日～1月3日、6日、14日

入場料：一般1,000円 大高生700円 中小生400円

特別鑑賞日：12月16日

主催：京都文化博物館、財団法人川端康成記念会、産経新聞社、京都新聞社

監修：川端香男里氏(川端康成記念会理事長)、平山三男氏(川端康成記念会評議員)

企画：日中ビデオネットワーク

後援：京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都商工会議所、京都府観光連盟、京都市観光協会、平安建都1200年記念協会、歴史街道推進協議会、サンケイスポーツ、夕刊フジ、サンケイリビング新聞社、NHK京都放送局、関西テレビ放送、KBS京都、ラジオ大阪、エフエム京都

担当者：野口 剛・長舟洋司

概要：日本初のノーベル文学賞を受賞した川端康成は美術にも深い造詣を持ち、後に国宝に指定された作品を含む、多数の美術品を収集した。財団法人川端康成記念会に引き継がれている収集品によって、美術コレクターとしての川端康成に光を当てる展覧会であった。

作品：池大雅・与謝蕪村「十便十宜図」、浦上玉堂「凍雲篩雪図」(以上、国宝)、「聖徳太子像」、オーギュスト・ロダン「女の手」、古賀春江「煙火」、東山魁夷「北山初雪」など約130点

入場者：16,291人(1日平均679人)

講演会：別館ホール

・1月12日「川端康成一美との出会い」

川端香男里氏(東京大学名誉教授、川端康成記念会理事長)

記念映画上映：3階映像ホール

・2002年12月19・21日 『雪国』

(1957年、東宝作品/監督：豊田四郎)

・2002年12月20・22日、

2003年1月17・19日 『古都』

(1963年、松竹太秦作品/監督：中村 登)

・2003年1月4・5日 『狂った一頁』

(1926年、新感覚派映画連盟/監督：衣笠貞之助)

・2003年1月9・11日 『山の音』

(1954年、東宝作品/監督：成瀬巳喜男)

・2003年1月10・12日 『千羽鶴』

(1969年、大映東京作品/監督：増村保造)

・2003年1月16・18日 『伊豆の踊子』

(1933年、松竹蒲田作品/監督：五所平之助)

◇京都府美術工芸新鋭選抜展～2003新しい波～

会期：2003年2月1日～2月16日(14日間)

休館日：月曜日

入場料：大人700円 大高生500円 中小生400円

主催：京都府、京都文化博物館

後援：京都新聞社、朝日新聞京都支局、毎日新聞京都支局、読売新聞大阪本社、産経新聞社、日本経済新聞社、NHK京都放送局、KBS京都、エフエム京都、京都商工会議所、平安建都1200年記念協会

担当者：野口 剛、長舟洋司

概要：京都で活躍している新進作家の作品を広く紹介し、その育成を図るとともに、京都の美術工芸の振興を図る展覧会。

作品：

最優秀賞：名和晃平「PixCell」(彫刻)

優秀賞：小山田浩成「トキActⅢ」(染織)、喜多川七重「サイレンス」(染織)、川越里美「しろのかたち いろのかたち」(陶芸)など39作家、70点

入場者：5,029人(1日平均359人)

◇男も女も装身具―江戸から明治の技とデザイナー

会期：2003年2月28日～3月30日(27日間)

休館日：月曜日

入場料：一般1,000円 大高生700円 中小生400円

特別鑑賞日：2月27日

主催：京都文化博物館、NHK京都放送局、NHKきんきメディアプラン

特別協力：国立歴史民俗博物館

制作協力：NHKプロモーション

後 援：京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都商工会議所、京都府観光連盟、京都市観光協会、平安建都1200年記念協会、歴史街道推進協議会、KBS京都、エフエム京都

担当者：洲鎌佐智子、藤本恵子

概 要：国立歴史民俗博物館所蔵の装身具を中心に、江戸から明治時代にかけて男性にも女性にも愛用された装身具の数々を、素材別、技法別、デザイン別などさまざまな角度から紹介した展覧会。

作 品：芦雁図綴錦腰差したばこ入れ、ウンスンカ

ルタ蒔絵印籠、蝶牡丹文綴錦箱迫、京名所 函鐺・小柄・縁頭（和田一真作）、親子猿根付け「銘 光明」など約1000点

入場者：13,325人(1日平均494人)

講演会：別館講義室

・3月16日「小さな装身具の豊かな世界」

日高 薫氏（国立歴史民俗博物館助教授）

体験講座：別館ホール

・3月1日「手作り装身具（袋物）」

花岡 瞳氏（キルト作家）

列品解説：4階会場

・3月22日 洲鎌佐智子（当館学芸員）

2002年度特別展の開催状況一覧

展 覧 会 名	会 期	日 数	入場者数	一日平均	形 態
都の音色ー京洛音楽文化の歴史展ー	2002. 4. 6~2002. 5.12	32	7,777	243	自主展
版画家 池田満寿夫の世界ー黒田コレクションからー	2002. 5.25~2002. 6.30	32	17,862	558	共催展
古代日本 文字のある風景ー金印から正倉院文書までー	2002. 7.13~2002. 8.18	32	8,718	272	共催展
平山郁夫コレクション ガンダーラとシルクロードの美術	2002. 8.31~2002.10. 9	34	22,966	675	共催展
日本最大級の風俗収集品ー吉川観方と京都文化ー	2002.10.22~2002.12. 1	36	13,327	370	自主展
没後30年ー川端康成 文豪が愛した美の世界	2002.12.17~2003. 1.19	24	16,291	679	共催展
京都府美術工芸新鋭選抜展~2003新しい波~	2003. 2. 1~2003. 2.16	14	5,029	359	共催展
男も女も装身具ー江戸から明治の技とデザイナーー	2003. 2.28~2003. 3.30	27	13,325	494	共催展
計 8 件		231	105,295	456	

(3) 特別陳列

◇木綿・ガラス等の民具

会 場：別館1階東室

会 期：2002年12月10日~2003年3月9日（72日間）

概 要：木綿・ガラス等を素材とする民具・歴史資料と郷土玩具60点。

分 野	資 料 名 (収集地)
民 具	仕事着・野良着・子供用蚊帳・弁当袋・腰巾・飯釜・田植縄・子供着・タイヤ裏草履・石臼・ランプ・鞆・香合・菓子皿・計置枱（以上、京都市）／藤布・かんじき・ランプ（宮津市）／藤箕（井手町）／裂織（丹後町）／弁当行李（福知山市）／屑籠（亀岡市）
歴史資料	防毒マスク・蠟燭
郷土玩具	押絵／押絵羽子板／糸毬／お手玉／布老虎／ピン入り手毬／万華鏡／ポップン／おはじき／ガラススライド／幻灯機／人形硯／磁石人形／でんでん太鼓／ほら貝笛／デイゴの葉の凧／ソテツ虫かご

(4) 館外共催事業

◇京都府立総合資料館収蔵展示室 公開

会 場：京都府立総合資料館収蔵展示室

会 期：2002年5月21日~23日（3日間）

入場者数：166人

入場者数：122人

◇第3回世界水フォーラム関連イベント「京都府立総合資料館収蔵品展ー館蔵資料にみる京と水ー」への協力

◇京都府立総合資料館収蔵展示室 公開

会 場：京都府立総合資料館収蔵展示室

会 期：2002年10月22日~24日（3日間）

会 場：京都府立総合資料館展示室

会 期：2003年2月22日~3月23日（28日間）

出品作品：民具「巨椋池の漁具」など17点

(5) 京都府民ギャラリー事業への協力

京都府では、府民が身近に「文化・芸術の町」を体験できる空間を創出するために、府民ギャラリー事業

を実施している。本事業は、京都府が所蔵する美術工芸品のうち、「京の四季」や「京の絵本原画」等から

テーマを定めて構成した作品群を、府内の文化施設で展示するもので、当館は(1)展示会場となる文化施設の

事前調査、(2)展示作品の選定、(3)会場での展示指導、などにおいて協力している。

主催者	期 間	開催場所	展示内容
京都府	2002. 3.27～ 7. 7	京都府庁	「京の四季」から6点
京都府・網野町・(財)丹後地域地場産業振興センター	2002. 4.13～ 4.16	アミティ丹後	「京の四季」から24点
京都府	2002. 7.17～11. 8	京都府庁	「京の四季」から6点
京都府	2002.11. 8～2003. 1.31	京都府庁	「京の四季」から7点
京都府・八幡市・(財)やわた市民文化事業団	2002.12. 5～12.17	八幡市文化センター	「京の絵本」原画から17点
京都府	2003. 1.31～ 4.24	京都府庁	「京の四季」から7点

3-3 映 画

(1) 常設上映

上映期間	テ ー マ	作 品 名	日	回数	鑑賞者数
2002. 4. 4～ 4.28	映画の音色 —交感するイメージとサウンド	マダムと女房／野良犬／青い山脈／続・青い山脈 ／噂の女／近松物語／ビルマの豎琴／用心棒／他 人の顔	16	32	1,834
2002. 5. 2～ 5.26	“伝説の二枚目” 俳優・長谷川一夫特集	弁天小僧／鳥辺山心中／藤十郎の戀／鶴八鶴次郎 ／或る夜の殿様／源氏物語／獅子の座／地獄門／ 女と海賊	16	32	1,986
2002. 5.30～ 6.30	名匠たちの青春群像—現代劇篇	東京の合唱／伊豆の踊子／春琴抄 お琴と佐助／ 噂の娘／嵐／土と兵隊／暖流／沼津兵学校／姿三 四郎／花咲く港	20	40	2,257
2002. 7. 4～ 8. 4	スクリーンに虚構と夢を！ フィクション＋アクション ＋ファンタジー	洪川伴五郎／ハワイ・マレー沖海戦／ノンちゃん 雲に乗る／笛吹童子 1～3部／ゴジラ／東海道 四谷怪談／怪談／釈迦／大魔神	18	36	1,935
2002. 7.12～ 7.14	祇園祭記念特別上映	祇園祭	2	4	229
2002. 8. 8～ 8.11	上方ルネッサンス2002 楽劇の 祭典 映画の中の「歌舞伎」 —上方和事と江戸荒事	浪花の恋の物語／虎の尾を踏む男達	4	8	496
2002. 8.15～ 9. 1	ジャパニーズ・ロード・ムービー 「股旅」	皷の母 (S6年)／続清水港／風と女と旅鴉／濡 れ髪三度笠／関の彌太っぺ／新座頭市 破れ！唐 人剣	12	24	1,571
2002. 9. 5～ 9.22	夭折の天才映画監督 —山中貞雄特集	右門一番手柄 磯の源太／怪盗白頭巾／丹下左膳 余話・百万両の壺／河内山宗俊／人情紙風船／戦 国群盗伝／その前夜	12	24	1,561
2002. 9.26～10.27	宿命を越える女たち	夜の女たち／わたしの名は情婦／西鶴一代女／女 ひとり大地をゆく／赤線地帯／越前竹人形／にっ ぽん昆虫記／赤い殺意／香華／大地の子守歌	20	40	2,755
2002.10.31～11.10	“芸術”を記録する —アート・フィルム	京の工芸／島原角屋／文案／創る・本郷新の世界・ ／彫る棟方志功の世界	8	16	310
2002.11.14～11.17	吉川観方の時代考証による映画上映 作品	忠臣蔵／京洛の舞	4	8	479
2002.11.21～12.15	“討入り”から300年 —忠臣蔵と義士外伝	四十八人目／血煙高田の馬場／元禄快拳余話 土 屋主税／薄桜記／忠臣蔵 (1912年)／忠臣蔵 (1926年) ／実録忠臣蔵／元禄忠臣蔵 (前篇)／元禄忠臣蔵 (後篇)	16	32	1,731
2002.12.19 ～2003. 1.22	「川端康成展」記念映画上映	雪国／古都／狂った一頁／山の音／千羽鶴／伊豆 の踊子	14	27	2,698
2003. 1.23～ 2.23	男のロマン！—わが道を行く	鳥人／無法松の一生／生きものの記録／夫婦善哉 ／幕末太陽傳／エロ事師より人類学入門／けんか えれじい／男はつらいよ／ツィゴイネルワイゼン ／尖宅の人	20	40	2,403

2003. 2.27～ 3.30	「第3回世界水フォーラム」 記念映画上映「水に想う」	滝の白糸／疏水流れに沿って／或日の干潟／箱根 風雲録／雨月物語／米／裸の島／太平洋ひとりぼ ち／砂の女／湖の琴／泥の河	20	40	2,181
計			202	403	24,486

(2) 特別上映・共催事業

◇日本映像学会関西支部 夏期ゼミナール

「時代劇の巨匠とスター」

期 間：2002年8月3日～5日

共 催：日本映像学会関西支部、京都府

会 場：京都府立ゼミナールハウス

◇上方ルネッサンス2002 楽劇の祭典

映画の中の「歌舞伎」— “上方和事と江戸荒事”

期 間：2002年8月8日～11日

共 催：関西楽劇フェスティバル協議会

◇京都国際学生映画祭2002

期 間：2002年9月13日～16日

共 催：大学コンソーシアム京都

会 場：別館ホール

◇日本映画テレビ技術協会特別試写会

『ギフチョウと生きる里』

(2001年記録映画／監督：矢島仁)

期 間：2002年11月17日

共 催：日本映画テレビ技術協会

※敬称略。映画タイトルは『 』で表記。特に会場の記載
されていない催しは当館3F映像ホールで開催した。

(3) 映像ギャラリー常設展示

京都府所蔵の映画関連資料より、明治から昭和初期の映画カメラ・映写機、伊藤大輔文庫、大映京都撮影所関連資料を展示している。また所蔵の映画作品から73作品をダイジェストして収録し、検索システムとして公開している。詳細については、『京都文化博物

館10年のあゆみ』(1999年)を参照されたい。

なお、映像ホールでの企画上映にあわせて、ポスター・スチル・チラシ等50点前後の資料を随時展示替えしながら公開している。2002年度は下記のテーマで展示した。

期 間	テ ー マ	内 容
2002. 4. 2～ 4.28	ポスターで見る伊藤大輔監督作品	伊藤大輔文庫資料と併せ、伊藤監督作品ポスターを展示。
4.30～ 5.26	『女と海賊』に見る映画製作の流れ	企画書、衣裳デザイン画、脚本改稿、宣材などの資料を展示。併せて長谷川一夫主演作品ポスターも展示。
5.28～ 6.30	名匠たちの青春群像—現代劇篇	作品ポスター、脚本、原作本を展示。
7. 2～ 9. 1	撮影監督の職能と責務	宮川一夫、森田富士郎、今井ひろしを取り上げ、絵コンテや平面図などでカメラマンの仕事を紹介。
9. 3～10.27	山中貞雄遺品展	前期は「山中貞雄と京都」、後期は「山中貞雄 従軍記より」としてそれぞれ70点を展示。
9.13～ 9.16	“京都国際学生映画祭2002” 関連企画	映像ギャラリー内にビデオブースを設置、応募全作品の鑑賞用スペースとした。
10.29～2003. 1.19	伊藤大輔写真展	映画とは離れた趣味として撮影された伊藤大輔監督の写真と愛用のカメラを展示。
12.18～ 1.19	川端康成原作映画ポスター展	
2003. 1.21～ 3.30	森一生の仕事	森一生監督の資料、撮影台本、ポスター等を展示。

(4) 京都府映像文化センター運営委員

氏 名	所 属 等	氏 名	所 属 等	氏 名	所 属 等
坂上 順	東映京都撮影所長 *	中村 努	シナリオライター *	岡本 道雄	内部委員
実方 司郎	京都興行協会常任理事	羽生 清	京都造形芸術大学教授 *	高見 静治	内部委員
多田道太郎	京都大学名誉教授	森田富士郎	映画撮影監督		
中島 貞夫	映画監督	三品 廣実	京都府文化芸術室長		

※ *印：2002年4月就任

4. 調査研究活動

4-1 調査

(1) 埋蔵文化財の発掘と整理

◇梅屋小学校跡地の発掘調査と整理

遺跡名：平安京左京二条三坊一町跡

所在地：京都市中京区釜座通丸太町上る梅屋町174

発掘期間：2002年4月1日～8月23日

(前年度から継続)

整理期間：2002年8月24日～2003年3月31日

(次年度へ継続)

依頼者：京都第二赤十字病院

作業概要：前年度からの継続。江戸期については、遺構の出土遺物から前後二期に分けられ、地下室や建物基礎、井戸や便所跡、鑄造関係遺物や多量の日常雑器に混じって茶器関係の陶磁器が出土するなど活発な生活活動の跡が見られたが、嘉永年間の火事によってほぼ活動が見られなくなる。平安～中世については、井戸・溝・柱穴状の土坑などが目立った。とくに中世については、新町通に面した部分で遺構の集中が見られ、当時の町割りに相当すると思われる溝も発見した。一方、平安期については、中・近世の攪乱が激しく、明確な遺構としては井戸



2002年4月 梅屋小学校跡地発掘調査風景（東より）

が3基検出されたにとどまり、神祇官付属の施設があったとされる神祇官町に関する遺構は発見できなかった。しかし、包含層や遺構からは、平安期の遺物が多く見つかった。とくに軒瓦や緑釉陶器が目立っており、当地の性格を解明するうえで重要と思われる。発掘終了後、整理作業に入る。次年度へ継続。

担当者：南博史・村田昌也

報告書：平成15年度末刊行予定

4-2 学芸員の活動

(1) 博物館研究費による研究

- 長舟洋司 田村宗立研究(1)
洲鎌佐智子 江戸時代後期の京焼について
鈴木忠司 岩宿時代の食体系再考―礫群による調理実験を中心として
南 博史 歴史系博物館の教育普及活動において考古学をどう利用していくか―遺跡博物館の可能性を考える(3)―
大塚活美 京都および周辺地域の祭礼についての歴史的研究

(2) 外部研究費・共同研究等による研究

- 野口 剛 ・平成14年度科学研究費補助金(奨励研究)「18世紀を中心とする絵師の僧位叙位に関する史料の基礎的な調査・研究」
南 博史 ・共同研究「エルサルバドル・チャルチュアパ遺跡カサブランカ地区における考古

学調査」(代表：伊藤伸幸名古屋大学助手・新大陸文化研究所代表)

・研究協力「中米エルサルバドルにおけるテフラ降下年代に関する研究」(代表：北村繁弘前学院大学講師)

大塚活美 ・平成14年度科学研究費補助金基盤研究(A)(1)「第二定型洛中洛外図屏風の総合的研究」(代表：黒田日出男東京大学教授)研究協力者

(3) 出講・委嘱

山本俊介 ・京都府美術工芸新鋭選抜展 審査員
・福知山市佐藤太清賞公募美術展 審査員
・創工会展委嘱 審査員

藤本恵子 ・文化庁文化財買取評価委員

(京都国立博物館)

森脇清隆 ・大谷大学短期大学部出講(後期)

野口 剛 ・花園大学出講（通年） 「美術史研究」
 片岡 肇 ・木下美術館委嘱 理事
 鈴木忠司 ・京都府立大学出講（通年）
 「博物館実習講義」
 ・古代学協会委嘱
 『古代文化』刊行委員会編集参与
 南 博史 ・京都外国語大学出講（通年）「博物館学」
 ・京都外国語大学出講（通年）
 「博物館実習 I」
 ・古代学協会委嘱
 『古代文化』刊行委員会編集参与
 大塚活美 ・滋賀県教育委員会
 自然神信仰調査調査員

(4) 学芸員の業績

a. 論文・著作

- 藤本恵子 ・図録『日本最大級の風俗収集品 吉川観方と京都文化』共同編集（京都文化博物館、2002年10月）
 ・「展覧会報告 日本最大級の風俗収集品 吉川観方と京都文化」（民族芸術学会編『民族芸術』VOL.19所収、2003年3月）
 ・「翻刻：風俗研究家・吉川観方の日記（昭和8年分）」（京都文化博物館研究紀要『朱雀』第15集所収、京都文化博物館、2003年3月）
 ・「<山下秀樹氏を偲ぶ>病室から届いた山下さんのメール」（同上）
 長舟洋司 ・「<山下秀樹氏を偲ぶ>山下秀樹兄」（京都文化博物館研究紀要『朱雀』第15集所収）
 洲鎌佐智子 ・「<山下秀樹氏を偲ぶ>気取らず、飾らずの人」（京都文化博物館研究紀要『朱雀』第15集所収）
 野口 剛 ・「作品解説（分担）」（図録『吉川観方と京都文化』所収）
 ・「作品解説（分担）」（図録『没後30年川端康成 文豪が愛した美の世界』、2002年10月）
 ・「鶴澤派研究序論—主に探山と探鯨に関する文献の考察—」（京都文化博物館研究紀要『朱雀』第15集所収）
 ・「京都府立総合資料館蔵鶴澤家資料の紹介」（同上）
- 片岡 肇 ・「<山下秀樹氏を偲ぶ>幻の展覧会企画のことなど」（同上）
 片岡 肇 ・「<追悼 山下秀樹氏>三つ目の展覧会—山下秀樹“京の匠展”までの3年半—」（京都文化博物館研究紀要『朱雀』第15集所収）
 鈴木忠司 ・図録『都の音色—京洛音楽文化の歴史展—』共同編集（京都文化博物館、2002年4月）
 ・「作品解説（分担）」「参考文献」（図録『都の音色』所収）
 ・「岩宿時代のムラ」（『地質と調査』2001年第3号所収、2002年9月）
 ・「石蒸し調理実験記録3）—際加熱法と調理特性をめぐる—」（竹内直文・際群調理実験グループと共同執筆／京都文化博物館研究紀要『朱雀』第15集所収）
 ・「<山下秀樹氏を偲ぶ>飯豊連峰」（同上）
 植山 茂 ・図録『都の音色—京洛音楽文化の歴史展—』共同編集（前掲）
 ・「概説 京都の音楽文化史—都の音色—」
 「京都音楽史年表」「図版項目解説」「作品解説（分担）」「参考文献」（図録『都の音色』所収）
 ・「日本の音楽文化の歴史を辿る—『都の音色』展に寄せて—」（『文化財レポート』No.8所収、京都文化財団、2002年4月）
 ・「天下一鏡師たちの工房跡」（『天下人の時代』所収、平凡社、2003年3月）
 ・「<山下秀樹氏を偲ぶ>おーい、山下くん」（京都文化博物館研究紀要『朱雀』第15集所収）
 南 博史 ・「<山下秀樹氏を偲ぶ>兄へ」（京都文化博物館研究紀要『朱雀』第15集所収）
 土橋 誠 ・「<山下秀樹氏を偲ぶ>山下さんの思い出」（京都文化博物館研究紀要『朱雀』第15集所収）
 大塚活美 ・「書評：水本邦彦編『街道の日本史32 京都と京街道』」（『京都民報』2002年12月15日）
 ・「中世の巡礼札」（転載、『日本史学年次別論文集 中世2 2000年版』所収、朋文出版、2003年2月）
 ・「郷祭りにおける複数村落祭祀の成立—

近江国蒲生郡を中心に一」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第98集所収、2003年3月）

・「<山下秀樹氏を偲ぶ>追悼」（京都文化博物館研究紀要『朱雀』第15集所収）

村田昌也 ・「椿井大塚山古墳被葬者像の再検討」（京都文化博物館研究紀要『朱雀』第15集所収）

・「<山下秀樹氏を偲ぶ>果たせなかった約束」（同上）

b. 発表・講演

藤本恵子 ・「近代のきものの変遷」（社団法人全日本きもの振興会寄付講座、京都学園大学「きもの学」講習会、キャンパスプラザ、2002年9月11日）

・「“日本最大級の風俗収集品—吉川観方と京都文化”展概要説明」（京都文化博物館友の会文化講座、京都文化博物館、2002年11月14日）

・「列品解説」（「日本最大級の風俗収集品吉川観方と京都文化」展、京都文化博物館、2002年11月24日）

洲鎌佐智子 ・「列品解説」（「男も女も装身具—江戸から明治の技とデザイン—」展、京都文化博物館、2003年3月22日）

片岡 肇 ・「法住寺殿跡出土の鋏形について」（歴史常設展展示解説、京都文化博物館、2002年10月5日）

鈴木忠司 ・「野辺山シンポジウム2002—標高1400メートル野辺山高原の旧石器時代と研究の半世紀をみつめる—」パネラー（佐久

考古学会、野辺山基幹集落センター、2002年9月6日）

・「世界の旧石器」（歴史常設展展示解説、京都文化博物館、2002年5月11日）

・「雲林院跡発掘調査の成果」（歴史常設展展示解説、京都文化博物館、2002年12月21日）

植山 茂 ・「“都の音色—京洛音楽文化の歴史展—”概要説明」（京都文化博物館友の会文化講座、京都文化博物館、2002年4月10日）

・「平安京の瓦」（中世瓦研究会、古代学協会、2002年8月10日）

・「平安貴族の趣味と教養—音楽」（源氏物語ミュージアム講座、宇治市源氏物語ミュージアム、2002年9月13日）

・「江戸時代の平安京研究」（歴史常設展展示解説、京都文化博物館、2002年9月21日）

・「中世芸能の諸相」（公民館講座ふるさとの歴史・文化財、加茂町瓶原公民館、2003年1月30日）

・「吉田初三郎の京都名所案内絵図」（歴史常設展展示解説、京都文化博物館、2003年3月15日）

南 博史 ・「エルサルバドル・チャルチュアパ遺跡カサプランカ地区の発掘調査の概要」（古代アメリカ研究会、2002年6月8日）

・「匠の世界・伝統建築」（歴史常設展展示解説、京都文化博物館、2002年7月27日／文友会・小西隆夫氏と）

・シンポジウム「檀原遺跡」司会（日本考古学協会檀原大会、2002年11月9・10日）

・「京都文化博物館と界わい—地域とフィールドミュージアム文化—」（「まちなかを歩く日」記念トーク、京都文化博物館、2002年11月17日）

・「匠の世界・壁塗り」（歴史常設展展示解説、京都文化博物館、2003年1月25日／文友会・田代益一氏と）

・「エルサルバドル・チャルチュアパにおける遺跡博物館づくり」（アンデス文明研究会、2003年1月18日）

土橋 誠 ・「和歌の家」（歴史常設展展示解説、京都文化博物館、2002年6月8日）



2002年11月14日 京都文化博物館友の会文化講座
（藤本恵子学芸員／別館講義室）



2002年10月5日 学芸員による展示解説
(片岡肇学芸第二課長／2階歴史展示室)

- ・「古代印の世界」(第84回阪急文化セミナー、阪急電鉄本社1階エコルテホール、2002年7月25日)
- ・「平安京出土の文字資料」(歴史常設展展示解説、京都文化博物館、2002年8月10

日)

- ・「日本の文字の源流」(源氏物語ミュージアム講座、宇治市源氏物語ミュージアム、2002年9月20日)
 - ・「学芸員が語る葵祭のころ」(「まちなかを歩く日」記念ビデオ&トーク「京の葵祭展」イベント、京都文化博物館、2002年11月17日)
 - ・「池亭記」(歴史常設展展示解説、京都文化博物館、2003年2月15日)
- 大塚活美
- ・「武者の世に」(歴史常設展展示解説、京都文化博物館、2002年4月20日)
 - ・「蒲生町の石造物」(蒲生町ボランティアガイド研修会 ふるさとの寺小屋、あかね文化センター、2002年10月23日)
 - ・「狩野益信筆 洛中洛外図屏風」(歴史常設展展示解説、京都文化博物館、2002年11月9日)

5. 普及活動

5-1 出版物

(1) 京都文化博物館研究紀要『朱雀』

◇『朱雀』第15集

発行：京都文化博物館
 発行日：2003年3月31日
 印刷：(株)燈影舎
 体裁：B5判、136ページ
 編集担当：藤本恵子
 所載記事：

【論攷】

野口 剛 鶴澤派研究序論—主に探山と探鯨に関する文献的考察—

【研究ノート】

鈴木忠司・竹内直文・磯群調理実験グループ
 石蒸し調理実験記録(3) —磯加熱法と調理特性をめぐって—

村田昌也 椿井大塚山古墳被葬者像の再検討

【資料紹介】

野口 剛 京都府立総合資料館蔵鶴澤家資料の紹介

藤本恵子 翻刻：風俗研究家・吉川観方の日記（昭和8年分）

【追悼 山下秀樹氏】

山下秀樹 「京の匠展」への想い
 片岡 肇 三つ目の展覧会—山下秀樹、「京の匠展」までの3年半—

山下秀樹氏略年譜

山下秀樹氏著作目録

山下秀樹氏を偲ぶ

（南 博史・鈴木忠司・野口 実・洲鎌佐智子・金田 暁・磯野真知子・藤本孝一・長舟洋司・高見 静治・土橋 誠・森 雅樹・野口 剛・植山 茂・村田昌也・大塚活美・藤本恵子・山田邦和）

【京都文化財団出版物在庫一覧】

(2) 京都文化博物館年報

◇2001年度

編集・発行：京都文化博物館
 発行日：2003年3月31日
 印刷：(株)燈影舎
 体裁：A4判、40ページ
 編集担当：片岡 肇・大塚活美

(3) 展覧会図録

◇『都の音色—京洛音楽文化の歴史展—』

編集：京都文化博物館学芸第二課
 発行：京都文化博物館
 発行日：2002年4月6日
 制作・印刷：(株)写真化学
 体裁：A4判、170ページ
 編集担当：植山 茂・鈴木忠司

◇『特別展 日本最大級の風俗収集品

—吉川観方と京都文化』

編集：京都文化博物館学芸第一課
 発行：京都文化博物館
 発行日：2002年10月22日
 制作・印刷：ニューカラー写真印刷(株)
 体裁：A4判、236ページ
 編集担当：藤本恵子・野口 剛・洲鎌佐智子

◇『京都府美術工芸新鋭選抜展～2003新しい波～』

編集・発行：京都府・京都府京都文化博物館
 発行日：2003年1月
 制作・印刷：ニューカラー写真印刷(株)
 体裁：25cm×25cm、52ページ
 ※各書の奥付に発行日のないものは、その展覧会の開始月を挙げた。

5-2 講演会・音楽会

(1) 講演会など

開催年月日	講師	所属等	演題・テーマ	備考
2002. 4.10	植山 茂	当館主任学芸員	「都の音色」展概要説明	京都文化博物館友の会文化講座
4.13	平安雅楽会		御神楽	「都の音色」展演奏会
4.20	祇園田楽保存会		祇園田楽	「都の音色」展演奏会
〃	大塚 活美	当館学芸員	武者の世に	歴史常設展展示解説
4.27	京都當道会		京都発祥の地歌箏曲	「都の音色」展演奏会
4.29	久保田敏子	京都市立芸術大学教授	京の近世邦楽	「都の音色」展講演会

5. 3	長唄みのり会		都ゆかりの江戸長唄	「都の音色」展演奏会
5. 4	植木 行宣	京都学園大学教授	民俗にみる日本芸能史	「都の音色」展講演会
5.11	鈴木 忠司	当館主任学芸員	世界の旧石器	歴史常設展展示解説
6. 8	佐藤 陽子	ヴァイオリニスト	池田満寿夫の遺したもの	「池田満寿夫の世界」展 トーク&演奏会
／	土橋 誠	当館学芸員	和歌の家	歴史常設展展示解説
6.22	吉原 英雄	版画家	池田満寿夫を語る	「池田満寿夫の世界」展対談
	山本 容子	版画家		
7.20	栗本夏樹ほか	(出品者のうち8人)	京都発! 漆のメッセージ12	美術工芸常設展ギャラリートーク
7.21	大町憲治ほか	(出品者全員)	漆は、必要!?—12人の提案—	美術工芸常設展シンポジウム
7.27	南 博史	当館主任学芸員	匠の世界「伝統建築」	歴史常設展展示解説
	小西 隆夫	文友会		
8. 3	東野 治之	奈良大学教授	日本古代の文字文化	「文字のある風景」展講演会
8.10	土橋 誠	当館学芸員	平安京出土の文字資料	歴史常設展展示解説
9.21	植山 茂	当館主任学芸員	江戸時代の平安京研究	歴史常設展展示解説
10. 5	片岡 肇	当館学芸第二課長	法住寺殿跡出土の鋳形について	歴史常設展展示解説
10.27	切畑 健	大手前大学教授	吉川観方コレクションの特色	「吉川観方と京都文化」展講演会
11. 9	大塚 活美	当館学芸員	狩野益信筆洛中洛外図屏風について	歴史常設展展示解説
11.10	山科 言泰	衣紋道研究会京都支部長	宮廷装束着装実演会	「吉川観方と京都文化」展実演会
／	谷口 正典	陶芸家		「谷口良三遺作展」ギャラリートーク
11.14	藤本 恵子	当館学芸員	「吉川観方と京都文化」展概要説明	京都文化博物館友の会文化講座
11.17	南 博史	当館主任学芸員	京都文化博物館と界わい—地域と フィールドミュージアム文化— 学芸員が語る葵祭のこころ	「まちなかを歩く日」記念トーク
／	土橋 誠	当館学芸員		「まちなかを歩く日」記念ビデオ&トーク
11.24	藤本 恵子	当館学芸員		「吉川観方と京都文化」展列品解説
／	谷口 正典	陶芸家		「谷口良三遺作展」ギャラリートーク
12.21	鈴木 忠司	当館主任学芸員	雲林院跡発掘調査の成果	歴史常設展展示解説
2003. 1.12	川端香男里	東京大学名誉教授・ 川端康成記念会理事長	川端康成—美との出会い—	「川端康成一文豪が愛した美の世界」展 講演会
1.18	佐々木もと子	池大雅美術館館長		美術工芸常設展展示解説
1.25	南 博史	当館主任学芸員	匠の世界「壁塗り」	歴史常設展展示解説
	田代 益一	文友会		
2.15	土橋 誠	当館学芸員	池亭記	歴史常設展展示解説
3. 1	花岡 瞳	キルト作家	手作り装身具(袋物)の制作	「男も女も装身具」展体験講座
3.15	植山 茂	当館主任学芸員	吉田初三郎の京都名所案内絵図	歴史常設展展示解説
3.16	日高 薫	国立歴史民俗博物館助教授	小さな装身具の豊かな世界	「男も女も装身具」展講演会
3.22	淵鎌佐智子	当館学芸員		「男も女も装身具展」列品解説

(2) 音楽会

a. 京都文化博物館音楽会シリーズ

「歴史と共に〈音楽〉を楽しむ」

主催：京都文化博物館

後援：京都文化博物館友の会

協賛：吉忠株式会社

協力：アマデウス音楽事務所

企画・解説：岩淵龍太郎（京都市立芸術大学名誉教授・京都文化財団理事）

◇歴史と共に〈音楽〉を楽しむ音楽会シリーズ・XI ヴィルトゥオーゾの誕生 その2—ピアノ編

第四夜	ヨーロッパ音楽に巨大な影響を与えたピアノヴィルトゥオーゾ——ルビンシテイン	2002年4月18日	95名
お話し	岩淵龍太郎（京都市立芸術大学名誉教授・京都文化財団理事）		
演奏	藤満 健（ピアノ）		
曲目	A. ルビンシテイン：ヘ調のメロディー／ロマンス（ベテルスブルグの夜会 Op. 44より）／ピアノソナタ 第3番 Op. 41より第3楽章／即興曲 Op. 75-4／ボルカ Op. 82-6／バルカローレ Op. 50-3, 4 ほか		
第五夜	偉大なるローマン派の作曲家・ピアノヴィルトゥオーゾ——ラフマニノフ	2002年6月13日	148名
お話し	岩淵龍太郎（京都市立芸術大学名誉教授・京都文化財団理事）		
演奏	福永真弓（ピアノ）		
曲目	S. ラフマニノフ：プレリュード Op. 32-12 嬰ト短調、Op. 23-5 ト短調、Op. 32-5 ト長調、Op. 23-7 ハ短調、 Op. 23-2 変ロ長調／ピアノソナタ 第2番 変ロ短調 Op. 36		

第六夜	大ピアニストの首相——パデレフスキー	2002年8月29日	146名
お 話	岩淵龍太郎（京都市立芸術大学名誉教授・京都文化財団理事）		
演 奏	田淵千代子（ピアノ）		
曲 目	I. J. パデレフスキー：ポーランドの踊り Op. 5 / 六つの演奏会用ユモレスク Op. 14 / タトラ山のアルバム Op. 12 / 作品集「ミセラネア」 Op. 16		

◇歴史と共に〈音楽〉を楽しむ音楽会シリーズ・XII 天才たちの若き日とその晩年

第一夜	旅に育った天才——モーツァルト	2002年10月10日	180名
お 話	岩淵龍太郎（京都市立芸術大学名誉教授・京都文化財団理事）		
演 奏	伊藤真理子（ヴァイオリン）／平田葉子（ピアノ）／ゴットリーブ コール（合唱）		
曲 目	W. A. モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第5番 イ長調 「トルコ風」 K. 219 / レクイエム 二短調 K. 626より「ラクリモーサ」 / モテット「アヴェ・ヴェルム・コルプス」 K. 618		
第二夜	魂の天才——ベートーヴェン	2002年12月6日	164名
お 話	岩淵龍太郎（京都市立芸術大学名誉教授・京都文化財団理事）		
演 奏	藤満 健（ピアノ）		
曲 目	L. v. ベートーヴェン：ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第1番 二長調 Op. 12-1 / ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第6番 イ長調 Op. 30-1 / ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第10番 ト長調 Op. 96		
第三夜	短い生涯と深遠なる音楽——シューベルト	2003年2月6日	152名
お 話	岩淵龍太郎（京都市立芸術大学名誉教授・京都文化財団理事）		
演 奏	上田康雄（チェロ） / 田淵千代子（ピアノ）		
曲 目	F. シューベルト：ヴァイオリンとピアノのためのソナティネ 第2番 イ短調 Op. 137-2、D. 385 / ピアノ三重奏 第2番 変ホ長調 Op. 100、D. 929		

b. 第13回祇園祭の宵山に箏曲を聴く夕べ

（代表者 浅野愛子）

日 時：2002年7月14日、16日

演 目：六段の調べ、さらし風手事、月下美人、新

主 催：京都文化博物館

曉、荒城の月、月の砂漠、なつかしい日本

後 援：京都文化博物館友の会・京都文化博物館ろ

のうた（証城寺の狸囃子）ほか

じ店舗博和会

入場者：751人

会 場：京都文化博物館別館ホール

※祇園祭協賛事業として開催し、別館を午後6時から8時

演奏者：生田流宮城会麗調会社中

30分まで無料公開した。

5-3 博物館実習

①第1組

実施期間：2002年7月23日～26日

実習生：京都府立大学5人、立命館大学2人、滋賀
県立大学3人、京都精華大学1人、成安造
形短期大学1人

②第2組

実施期間：2002年9月3日～6日

実習生：京都外国語大学4人、京都造形芸術大学3
人、立命館大学3人、京都精華大学1人

③実習内容・担当者：

- ・博物館の概要・館内見学—山本・鈴木
- ・美術資料について —長舟・野口
- ・工芸資料について —藤本・洲鎌
- ・民俗資料について —山本・大塚
- ・文書資料について —土橋
- ・考古資料について —植山
- ・映像資料について —森脇
- ・まとめと反省 —全担当学芸員

5-4 その他の活動

(1) 資料閲覧室

当館の図書資料は、歴史・考古・美術・工芸・映像
など多分野にわたり、現在単行本約59,800冊、逐次刊

行物約3,000タイトル（66,500冊）を収蔵している。中
でも埋蔵文化財の発掘調査報告書が約23,200冊、展覧

会図録が約9,000冊と多く、また、映画のシナリオを約12,000冊収蔵しているのも特徴である。これらの図書資料については、研究目的で特に閲覧を希望する者に対して公開している。なお、本年度の書籍の受け入れ数は、3,900件であった。

(2) 文化情報コーナー

1階の文化情報コーナーでは、京都府内を中心とする美術館・博物館などの文化施設から送られてくるチラシやリーフレットなどを置いて、来館者が自由に持ち帰ることができるようにするとともに、京都の伝統行事、歴史、庭園、寺社の御利益、散歩道、コーヒーショップ、京の花などの検索できる「京のオススメ」と、近畿の歴史文化についてのCDによる動画情報の「歴史街道—ロマンへの扉」を設置して、来館者に情報を提供している。

(3) 生涯学習ボランティア

京都府長寿社会政策室の呼びかけに応じて1994年度に発足させた当博物館の生涯学習ボランティアは、常設展示の英語によるガイドとして、外国人の入館者に対するサービスを行っている。ボランティア・グループは「MOKの会」を結成して、総会・例会・研修会など独自の活動を実施している。

◇2002年度の活動

- 2002年4月13日 2002年度総会
5月18・25日 新会員対象オリエンテーション
6月1日 6月例会
9月14日 9月例会
9月21・22日 SKYふれあいフェスティバル2002
11月9日 11月例会
見学研修会(天龍寺)
11月13日 第5回学習ひろば参加
(京都府立山城郷土資料館)
- 2003年1月11日 1月例会
3月8日 3月総会
2003年度役員選出
会長：桜井 和代
副会長：北橋美喜子
副会長：松井 隆子
3月14日 全国文化ボランティア交流会参加
(京都市コンサートホール)

(4) 京都文化博物館友の会

友の会は、歴史、美術・工芸、映像等に興味を持つ人々が、京都文化博物館を通して楽しみながら博物館活動に協力することを目的とする。

①会員の特典

- ・会員証で常設展(映画鑑賞を含む)、特別展の無料での観覧
- ・会員同伴者5人以内を限度として1人20%の割引
- ・友の会が主催・後援する行事等の案内
- ・毎月、博物館の催事情報や各種行事案内の送付
- ・博物館発行出版物の割引

②会費

- ・個人会員 年会費 6,000円
- ・グループ会員(2名以上) 年会費 5,000円(1人)

③2002年度の状況

会員総数：837名(個人583名、グループ 254名)

◇見学会

- ・2002年6月20日
見学先：川島織物文化館・織物工場
説明者：森 克巳館長
参加者：54名

◇文化講座

- ・第1回 2002年4月10日
演 題：「都の音色—京洛音楽文化の歴史展—」
概要説明
講 師：植山 茂(学芸第二課主任学芸員)
場 所：別館講義室
参加者：23名
- ・第2回 2002年11月14日
演 題：「日本最大級の風俗収集品—吉川観方と京都文化」展概要説明
講 師：藤本恵子(学芸第一課学芸員)
場 所：別館講義室
参加者：24名

(5) 地域との連携

①「まちなかを歩く日」への参加と協力

地域住民・団体が中心となってすすめている「歩いて暮らせる街づくり推進会議」(2000年7月設立)が、活動趣旨の啓発と普及をはかるために地域全体で開催する「まちなかを歩く日」のイベント(11月16・17日)に、昨年に引き続き当館も参加した。第3回目となる今回は、「京のまち、魅力にひたる、秋の週末」を活

動のテーマとし、従来の京のまちなか8学区（城巽、龍池、本能、明倫、初音、柳池、日彰、生祥）に立誠学区も加わり、さまざまな活動が行われた。

当館が協力・参加した活動は以下のとおりである。

- a. 「まちなかウォークラリー2002」に対する協力
 - ・資料調査、原稿作成
 - ・携帯電話web版「まちなかウォークラリー2002」の製作
 - ・発着点業務など
- b. 別館無料公開およびイベント開催（11月17日）
 - ・「まちなかを歩く日」記念トークの開催
 - 1)「京都文化博物館と界わいー地域とフィールドミュージアム文化ー」

南 博史 当館主任学芸員

- 2)京の葵祭展プレイベント「学芸員が語る葵祭のこころ」(ビデオ&トーク)

土橋 誠 当館学芸員

・展示「歩いて暮らせるまちづくり」活動

(パネル&ビデオ)

歩いて暮らせるまちづくり推進会議事務局

c. 別館前総合案内所設置



2002年11月16日「まちなかを歩く日」総合案内所
(京都文化博物館別館前)

6. 国際交流

6-1 陝西歴史博物館友好交流事業

1991年6月に中国陝西省西安市に開館した陝西歴史博物館と当館とは、1994年の「大唐長安展」開催を契機に、同年12月に友好提携の調印を行い、①学術研究の成果の交流、②文物の保護技術の交流、③人材の育成・交流、を通じて両館の友好関係を確立し、推進することとした。その結果、人的な交流については、1年おきにそれぞれの職員2名を2週間派遣することになり、1995年に当館の職員を陝西省に派遣することが

ら両館の交流の第一歩を踏み出した。

この友好交流事業は、京都府からの補助事業という形で進められてきたが、長引く経済不況の下で、京都府も財政再建に取り組むこととなり、当事業も見直しを余儀なくされた。その結果、当館職員の陝西省への派遣はすでに1999年度から中止してきたが、加えて陝西歴史博物館職員の招聘も本年度から当面の間見合わせることにした。

7. ギャラリー事業

7-1 5・6階展示室

(1) 京都文化財団展示室運営委員会

美術・工芸作家等が京都文化博物館5・6階展示室及び京都市立文化芸術会館展示室を使用するにあたって、展示室運営を適正かつ円滑に進めるために、京都文化財団では展示室運営委員会を設置している。本委員会の委員は、学識経験者ならびに美術・工芸作家の中から理事長が委嘱し、任期は2年である。委員会の構成は、学識者1名、日本画3名、洋画2名、彫刻1

名、工芸3名（染織・陶芸・漆芸各1名）、書2名（仮名・漢字各1名）、写真1名の計13名で、展示室の使用を希望する美術・工芸作家等の作品について審議している。2002年度の委員会は以下のとおり開催した。

委員会開催日	審議対象期間	件数
2002年 7月 2日	2002年12月～2003年 3月	19
10月29日	2003年 4月～2003年 7月	12
2003年 2月25日	2003年 8月～2003年11月	17

(2) 美術・工芸作家の利用

京都府工芸美術陳列所（京都府ギャラリー）の機能を引き継いで、当館では開館以来、5階展示室に美術・工芸作家が利用できる場を設けている。利用期間を原則として毎月21日から月末の前日までと定め、府内に活動の本拠を持つ作家及び府内にゆかりのある作家に

限定している。展示作品は、絵画・彫刻・工芸・書・デザイン・写真・華道などのジャンルで、内容の充実しているものとし、利用の可否については、展示室運営委員会において利用申込者の作品を審議して決定している。2002年度の利用件数は、54件であった。

①作家利用一覧

会 期	展 覧 会 名	分 野	会 期	展 覧 会 名	分 野
2002 4.17～21	橋本房男作品展 ーテンペラ・油彩によるー	洋画	2002. 9.26～29	萌恋会染色作品展	染織
4.17～21	日本工芸会近畿支部陶芸部会展	陶芸	9.26～29	書の会「躍」展	書
4.23～29	坂部隆芳四半世紀軌跡展	日本画	9.26～29	京都ユネスコ協会美術工芸展	総合
4.25～29	日本画光玄展	日本画	10.23～27	櫛の会能面展	諸工芸
4.25～29	新日美京都支部展	美術総合	10.23～27	湯浅三郎和紙貼り絵・墨彩画展	日本画
5. 2～ 6	視点ー12の個	洋画	10.23～27	蒼蒼展	洋画
5.22～26	京都書作家協会会員展	書	11.20～24	面法会能・狂言面展	諸工芸
6.26～30	山川章三ろう染め展	染織	11.20～24	京の名工展	工芸総合
6.26～30	面風会能面・狂言面展	諸工芸	11.27～12. 1	創工会展	工芸総合
6.26～30	筍々会展	日本画	11.29～12. 1	絵更紗画林展	染織
6.26～30	種々展	日本画	12.19～23	帆の会展	洋画
6.27～30	書・六月の会展	書	12.19～23	久合田脩展	洋画
7. 3～ 7	橋本輝玉古稀書展	書	12.19～23	森 伸子水彩画展	洋画
7.10～14	京都日本画家協会新鋭選抜展	日本画	12.20～23	堀出恒夫写真展一女形 片岡秀太郎一	写真
7.24～28	大月光敷能面展	諸工芸	2003. 1.18～19	水明選抜書展	書
7.24～28	新美会員展2002	美術総合	1.22～26	莽生展	日本画
7.26～28	辛酉会書展	書	1.22～26	汎具象会友と受賞作家展	洋画
8.13～18	市川 洋 滂仏35年記念展	洋画	1.23～26	京都現代書芸展	書
8.21～25	北奥耕一郎写真展ー京艶ー	写真	2.13～16	成安造形短期大学服飾文化学科卒業作品展	工芸総合
8.21～25	六藝会篆刻展	書	2.21～23	京都橋女子大学日本語日本文学書道コース卒業制作展	書
8.28～ 9.1	本野東一・田中靖彦染色展	染織	3.19～23	あまがつ会人形展	諸工芸
8.28～ 9.1	ファインド・アイ文人光画展	写真	3.19～23	蒼龍展	書
9.18～23	マイケル・ホフマン水墨画展	日本画	3.19～23	面風会能面・狂言面展	諸工芸
9.19～23	光風工芸「明日へのかたち」展	工芸総合	3.21～23	辛酉会書展	書
9.19～23	白土会洋画作品展	洋画	3.26～30	福江良純展	彫刻
9.26～29	田中玉圃・大經二人展	書	3.26～30	安岡孝治・井上隆雄写真二人展	写真
9.26～29	平安書道会聚英展	書	3.28～30	小桜会織物展	染織
				計54件 (107日間)	44,190人

②作家利用分野別入場者状況

	美術						工芸				美術 工芸 総合	総計
	日本画	洋画	書	写真	彫刻	美術総合	染織	陶芸	諸工芸	工芸総合		
使用件数	7	9	13	4	1	2	6	1	7	3	1	54
割合(%)	12	17	24	7	2	4	11	2	13	6	2	100
入場者数	6,602	3,933	11,148	4,657	720	1,457	3,609	381	6,490	4,626	567	44,190
1件平均入場者数	943	437	857	1,164	720	728	601	381	927	1,542	567	818

(3) 生涯学習的発表期間の利用

1998年度より、5階・6階各展示室に生涯学習的発表期間を設けた。これは美術・工芸作家の利用に準ず

る利用期間として、美術・工芸作家及び技能芸能継承者の指導するグループの発表期間を設けたものである。

①生涯学習的発表の利用一覧

	会期	展覧会名	分野	入場者数
5階	2002. 4.10～4.14	木馬館日本画教室展	日本画	487
	5. 8～5.12	プペドール 創作陶磁器人形展	諸工芸	1,696
	5. 9～5.12	第11回押花アート展	諸工芸	1,552
	6.11～6.16	日韓結び文化京都展 ー第九回国際結び展ー	諸工芸	2,263
	6.18～6.23	高麗茶碗の名匠 森田統(十雨)「没十五年記念」全国縦断展京都展	陶芸	404
	7.15～7.21	第20回上野の森美術館大賞展関西展	洋画/日本画	1,501
	9.12～9.16	第19回産経国際書展関西展	書	1,586
	10. 3～10. 6	京都とっておきの芸術祭	(美術)総合	1,280
	10.16～10.20	QUILT HOUSE あんだんて 第7回パッチワーク・キルト作品展	諸工芸	4,205
	10.16～10.20	第15回早蕨会書展	書	1,074
	10.30～11. 4	第11回光勲能面會展	諸工芸	791
	10.30～11. 4	市民美術アトリエ合同展	洋画	484
	2003. 1. 9～1.13	～中国凱旋帰朝展～ 竹文化 八十山和代展	洋画	381
	2. 3～2. 9	第7回京都伝統工芸専門学校卒業記念作品展	(美術)総合	2,109
	2.26～3. 2	柳幸男と希代子展 ～水彩画と花のコーディネート～	洋画	311
	3. 6～3. 9	第16回全国シルバー書道展京都展	書	1,254
3.12～3.16	第15回森小夜子人形教室展	諸工芸	1,562	
3.12～3.16	20回記念 桃夭会日本画展	日本画	739	
計18件 使用日数：95日				23,679
6階	2002. 4.27	染織光悦會展	染織/染色	500
	5.29～6. 2	第2回国際墨面會展	日本画	410
	6. 8	体験学習(京舞)	その他	191
	7.31～8. 3	勸片山家能楽保存財団 第六回 能装束・能面展	(工芸)総合	990
	10. 4～10. 6	第60回華道本能寺 盛美いけばな展「L I F E」	華道	379
	10. 8～10.10	第30回京都シニア大学学園文化祭	(美術)総合	624
	10.12～10.14	杉本宏一作品展	染織/染色	157
	10.16	体験学習(京舞)	その他	33
	10.20	あねさん亭文博寄席[落語会]	その他	200
	10.25～10.27	第32回表芸展	その他	441
	10.29～11. 1	第二回「紬と織の公募展」	染織/染色	499
	11. 2～11. 4	創流百二十年記念 京都未生流いけばな展	華道	1,596
	11. 8～11.10	叡山学院墨跡展	書	257
	11. 8～11.10	第五回竹心展	書	300
	11.13	体験学習(京舞)	その他	39
	11.14～11.17	第40回龍門社選抜書道展	書	1,031
	11.20	体験学習(京舞)	その他	176
	11.22～11.24	第99回盆石・盆画・彩石画展	諸工芸	487
	2003. 1. 7～1.10	第4回京都有職節句人形博覧会	その他	224
	1.12	初笑い あねさん亭文博寄席[落語会]	その他	150
2. 1～2. 2	西陣手織協会作品展	染織/染色	580	

2. 3～ 2. 9	沖縄本土復帰30周年記念 沖縄の風を織る光を染める 清ら布展	染織／染色	2,474
3. 4～ 3. 9	一京友禅 絹の輝き― 玉村咏展	染織／染色	509
計23件		使用日数：64日	12,247

②生涯学習的発表の利用分野別入場者状況

	和装 呉服	美術							工芸					美術 工芸 総合	総計	
		日本画	洋画	書	写真	その他	美術 総合	小計	染織	陶芸・金 竹・漆	諸工芸	工芸 総合	小計			
5階	件数	-	2	4	3	-	-	2	11	-	1	6	-	7	-	18
	日数	-	10	23	14	-	-	11	58	-	6	31	-	37	-	95
	人数	-	1,226	2,677	3,914	-	-	3,389	11,206	-	404	12,069	-	12,473	-	23,679
6階	件数	-	1	-	3	-	10	1	15	6	-	1	1	8	-	23
	日数	-	5	-	10	-	16	3	34	23	-	3	4	30	-	64
	人数	-	410	-	1,588	-	3,429	624	6,051	4,719	-	487	990	6,196	-	12,247

※ 6階「その他」には華道2件(1975人)、体験学習4件(439人)、落語会2件(350人)を含む。

(4) 一般の利用

5階展示室及び6階展示室は美術・工芸作品の展示会等の他、京物と称される京都の伝統産業製品を紹介することを目的とした展示会、内見会、見本市等の会場としても利用されている。

		和装 呉服	染織	美術	工芸	その他	計
5階	件数	5	0	3	2	3	13
	日数	15	0	10	8	10	43
6階	件数	9	0	0	0	1	10
	日数	29	0	0	0	2	31

*美術：日本画、洋画、書、写真など
*工芸：陶芸、金工、竹工、漆芸、諸工芸など

7-2 別館ホール

旧日本銀行京都支店(重要文化財)の営業室であった別館のホールは、通常は常設展示の一環として公開しており、明治時代の代表的な洋風近代建築の内部が鑑賞できるが、一方で多目的ホールとしての機能も持つ

ている。特別展の開会式やレセプション、音楽会など館主催の事業に使うとともに、貸会場として展示会や音楽会などの利用にも提供している。

①利用状況

会期	展示会・音楽会名	会期	展示会・音楽会名
2002.4.4	FM京都収録 中川晃教ライブ	7.28	Jazz at the Sanjo Bunka Museum
4.6	末木みどりヴァイオリンリサイタル	8.4	フェリックス室内合唱団定期演奏会
4.7	京都C.モンテヴェルディ合唱団定期演奏会	8.11	RESONANZ 声楽研究会演奏会
4.14	アストロリコタンゴコンサート	8.25	アマデウスマイコンサート
4.21	京都フィルハーモニー室内合奏団定期演奏会	9.22	あいのまちはうすコンサート
4.28	坂部隆芳舞踏パフォーマンス	9.29	長月コンサート 加藤ますえカンツォーネリサイタル
5.12	京都フランス歌曲協会クレールコンサート	10.5	京都府 とっておきの芸術祭表彰式
5.20	文化庁 文化芸術懇談会(近畿ブロック)	10.6	京都フランス歌曲協会クレールコンサート
5.25	京都映画センター ガイアシンフォニー4上映会	10.12	京都シティフィル合唱団演奏会のためのセミナー
6.2	パッサア카데미関西 教会暦によるカンタータ	10.13	パッサア카데미関西 特別演奏会
6.8	埼玉県春日部市立豊春中学校合唱講習会	10.19	京都C.モンテヴェルディ合唱団定期演奏会
6.14	栗崎ヴォーカリストスタジオ ミュージアム発表会	10.20	京都フィルハーモニー室内合奏団定期演奏会
6.23	明日のピカソを発掘するアーティスト オーディションin京都	10.22～23	杉田二郎ライブ from my heart 2
6.29～30	Kyoto 建築士2002	10.25～27	アトリエM ステンドグラス作品展
7.7	仏教大学混声合唱団 SUMMER CONCERT	11.1～3	橋村重彦 洛北 花脊染友禅展
7.13	京都日本画家協会 日本画用紙に関するシンポジウム	11.8	Orban Gyorgy 合唱講習会
7.17	さんじゅうしちはちライブ 秋人・佐々木清次	11.9	あんさんぶるやしよめコンサート
7.26	高林啓子朗読の夕べ「雪国抄」	11.16	Jazz at the Sanjo Bunka Museum
		11.20	室町和久傳 安まゆみライブ
		11.22	煌めきのランプ 幻想の世界コンサート

11.22~24	アトリエエンジェル ステンドグラス作品展	1.26	針生りん太郎 近松譚詩抄一父と子一
12. 1	男性合唱団 Des Eleisons 合唱コンサート	2. 1	NPO 法人京都ヴェルディ協会講演会
12. 8	宮廷舞踏二つの時代ーシェークスピアからバッハへー	2. 2	日本のうた其の三 中尾かつ江・袴見一美コンサート
12.14	合唱団ぶどうの樹くりすますこんさーと	2. 9	合唱団 Rond・ハルモニア第11回演奏会
12.15	京都室内合唱団クリスマスコンサート	2.15	同志社大学グリークラブ フェアウェルコンサート
12.21~22	フローリストショップブーゼ フラワーアレンジメントクラス作品展	3. 2	京都フランス歌曲協会クレールコンサート
12.25	翔 ユリ子 クリスマスシャンソンコンサート	3. 4~ 9	NOBUKO ISHIKAWA JEWELRY SQUARE 一煌めきの軌跡一展
2003. 1.17~18	ロレアル文化賞学術講演会連続ワークショップ	3.15	安部陽子サロンコンサート
1.19	武満 徹ピアノの世界 一塚本宏子によるレクチャーコンサート	3.18~23	飛騨国際工芸学園進級・卒業家具展 Show&Shop 2004
1.25	JMコンサート	3.29	NPO 法人京都ヴェルディ協会講演会
		3.30	バッハアカデミー関西 定期演奏会

入場者数 計 16,418人



2002年10月20日 あねさん亭文博寄席「落語会」
(6階展示室)

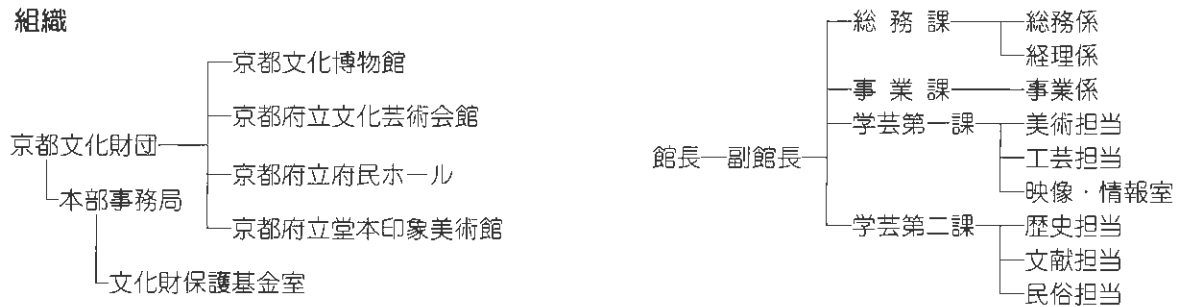


2002年5月3日 「都ゆかりの江戸長唄」
(長唄みのり会/別館ホール)

8. 管理・運営

8-1 組織と職員

(1) 組織



※ 総務課は京都文化財団本部総務課を兼ねる。

(2) 京都文化財団役員

2003年3月31日現在

職名	氏名	所屬等	註	職名	氏名	所屬等	註
顧問	芦原 義重	関西電力株式会社名誉会長		理事	芝田 米三	洋画家	
	林田悠紀夫	元京都府知事			菅 泰男	京都大学名誉教授	
	荒巻 禎一	前京都府知事			多田道太郎	京都大学名誉教授	
	山田 啓二	京都府知事	*		谷内 乾岳	神護寺住職	
理事長	岡本 道雄	京都大学名誉教授、京都文化博物館長			角田 文衛	勸古代学協会理事長	
副理事長	千 宗室	茶道家元			堂本 元次	日本画家	
	麻生 純	京都府副知事	*		西村 恭子	美術プロデューサー	
常務理事	高見 静治	京都文化博物館副館長			藤田 哲也	京都府教育委員会委員長	
理事	岩淵龍太郎	京都市立芸術大学名誉教授			真弓 常忠	前八坂神社宮司	
	岡田 節人	J T生命誌研究館長			村井 康彦	京都造形芸術大学教授	
	門脇 禎二	京都府立大学名誉教授			村田 純一	京都商工会議所会頭	*
	清水九兵衛	彫刻家			山本 壯太	NHK京都放送局長	
	小畑 弘	京都府社会教育委員連絡協議会会長		監事	岡田 博邦	㈱京都銀行協会専務理事	
	坂上 守男	㈱京都府観光連盟会長・㈱京都市観光協会会長			小石原範和	京都府出納管理局長	*

※ *印：2002年6月26日就任

(3) 京都文化博物館職員

2003年3月31日現在

所屬	職名	氏名	担当業務	備考
	館長	岡本 道雄	館総括	財団理事長兼務
	副館長	高見 静治	館業務総括	財団常務理事
総務課	課長事務取扱	石田 寿一	課総括	財団事務局長・本部総務課長兼務/2002.6～
	参事・総務係長事務取扱	金田 暁	総務係	財団本部事務局総務課兼務
	主幹兼経理係長	福富 和男	経理係	財団本部事務局総務課兼務/2002.6～
	主任	森木 礼子	経理係	財団本部事務局総務課兼務
	主事	佐藤 幸央	総務係	財団本部事務局総務課兼務
	嘱託	中越 悦朗	総務係	
	参事（文化財保護基金室）	矢野 治彌	総務課兼務	財団本部事務局文化財保護基金室
	課長補佐兼文化財保護基金室長	内村 悦郎	総務課兼務	財団本部事務局文化財保護基金室
事業課	課長	新井田郁雄	課総括	2002.6～
	専門員	柴田美千代	事業係	
	主事	磯野真知子	事業係	
	主事	森 雅樹	事業係	
	主事	海老名和孝	事業係	
学芸第一課	課長	山本 俊介	課総括	

	主幹兼映像情報室長 学芸員（主任） 学芸員（主任） 学芸員 学芸員 学芸員 嘱託	井上 文夫 藤本 恵子 森脇 清隆 長舟 洋司 洲鎌佐智子 野口 剛 溝口 勝美	映像・情報担当 工芸担当 映像・情報担当 美術担当 工芸担当 美術担当 映像	2002.6～ 非常勤／～2002.10
学芸第二課	課長（主任学芸員） 参事（主任学芸員） 主任学芸員 主任学芸員 主任学芸員 学芸員（専門員） 学芸員（主任） 嘱託	片岡 馨 鈴木 忠司 植山 茂 山下 秀樹 南 博史 土橋 誠 大塚 活美 村田 昌也	課総括 歴史担当 歴史担当 歴史担当 歴史担当 歴史・文献担当 民俗・歴史・文献担当 埋蔵文化財調査担当	 ～2002.6 2002.6～ 2002.1～2003.5

8-2 施設

(1) 本館関係

所在地：京都市中京区高倉通三条上ル東片町623-1
設 計：京都府土木建築部営繕課・(株)久米建築事務所

施工期間：1986年10月～1988年9月
敷地面積：4,790.35㎡（別館を含む）
建築面積：3,481.04㎡（別館を含む）
延床面積：15,827.42㎡（別館を含む）

本館床面積内訳：

地階 2,242.42㎡／1階 2,265.29㎡
2階 1,853.39㎡／3階 1,908.79㎡
4階 1,442.19㎡／5階 1,442.19㎡
6階 1,218.28㎡／7階 1,010.43㎡
塔屋 182.88㎡

構 造：鉄骨鉄筋コンクリート造／一部鉄骨造

(2) 別館関係

所在地：京都市中京区三条通高倉西入ル菱屋町48番地

設 計：辰野金吾・長野宇平治

施工期間：1903（明治36）年9月～1906（明治39）年6月

延床面積：2,261.56㎡

別館構造：建築面積—819.67㎡

煉瓦造、2階建一部地下1階

スレート・銅板葺、両翼塔屋付

旧金庫構造：建築面積—187.10㎡

煉瓦造、1階建、棧瓦葺

指 定：重要文化財

指定名称—旧日本銀行京都支店

指定年月日—1969年3月12日

指定書番号—建第1,708号

8-3 ろうじ店舗

「ろうじ店舗」は当館1階にあり、江戸時代末期の京町家の外観を復元したものであり、高倉通側には京料理などの飲食店、内側の路地には京物と呼ばれる伝統工芸品や土産物を扱う物販店が営業している。また、ろうじ店舗各店でつくる「ろうじ店舗博和会」は、当館の協力会として、開館記念日をはじめとする当館の催しに合わせて、積極的に多彩な催しを開催している。本年度のろうじ店舗の利用者は143,183人であった。

①ろうじ店舗一覧

◇紙の店—楽紙館

◇京しゅみ—孤軒

◇京のエッセンス18舗 名店会（順不同）

薫香—松栄堂 京の雅—古澤仙壽堂

京麩—半兵衛麩 京小間物—光悦

念珠—福永念珠舗 京菓業匠—若菜屋

京菓子—鼓月 京風雅便箋—表現社

京佃煮—野村 化粧小物—左り馬

宇治茶—福寿園 縮緬小物—くろちく

京扇子—とくの 京つけもの—西利

京象嵌—川人象嵌 竹の匠—高野竹工

八つ橋—井筒八ツ橋 京菓子—七條甘春堂

◇もち料理—きた村

◇手打ちそば・蕎麦料理一有喜屋	6月6日～9日	ろうじの呉美の市
◇甘党茶寮一あけぼの(2003年1月まで)	6月11日～7月9日	七夕(七夕飾り)
◇エスプレッソコーヒーの店一コロラドコーヒー	9月1日～30日	重陽(菊飾り)
◇織屋直販店 ショップ西陣(順不同)	9月13日～15日	ろうじの呉美の市
風呂敷一上羽機業 絹のれん一渡文	11月15日～17日	ろうじの呉美の市
バック一小森織物 ネクタイ一段下二郎	11月21日～24日	ろうじの古本市
シャツ一すぎむら 綴れグッツ一本つづれ勝山	11月23日	ろうじの古本市講演 会(永井一彰氏)
テーブルクロス一瀬川工芸織物		
◇珈琲サロン(別館)一阿蘭陀館	12月16日	
◇ミュージアムショップ(3階)一便利堂	～2003年1月20日	正月(凧飾り)
②博和会行事	2月16日～4月3日	雛祭り
2002年 4月23日～5月15日 端午(鯉のぼり)	3月7日～9日	ろうじの呉美の市
5月10日～12日 ろうじの古本市		

9. 2002年度のあゆみ

※ 事項欄の「MH」は映像ホール、「AH」は別館ホール、「AL」は別館講義室、「AE」は別館東室の省略

月 日	事 項	月 日	事 項
4. 1	人事異動	6.18	京都文化財団監事監査
4. 2	「京都の美術・工芸展 京都の現代版画—池田満寿夫と同世代を中心として」 「所蔵品にみる一竹の工芸」 開催（3階／～6.30）	6.20	修学旅行夜の体験学習「けまり」（AH） 友の会見学会（川島織物文化館／織物工場）
4. 4	「映画の音色—交感するイメージとサウンド」 映画上映（MH／～4.28）	6.22	「池田満寿夫の世界」 展対談（吉原氏、山本氏／AH）
4. 6	「都の音色—京洛音楽文化の歴史展」 開催（4階／～5.12）	6.25	第35回京都文化財団役員会（京都府公館）
4.10	友の会第1回文化講座「都の音色」 展概要説明（植山／AL）	7. 2	「京都の美術・工芸展 京都発！ 漆のメッセージ12」 「所蔵品にみる—京都の漆芸」 開催（3階／～10.6）
4.13	「都の音色」 展演演奏会（平安雅楽会／AH）	7. 4	展示室運営委員会（京都府立文化芸術会館）
4.18	音楽会<ヴィルトゥオーゾの誕生・その2—ピアノノ編>第4夜（AH）	7. 9	「スクリーンに虚構と夢を！ フィクション+アクション+ファンタジー」 映画上映（MH／～8.4）
4.20	「都の音色」 展演演奏会（祇園田楽保存会／AH）	7. 9	歴史特別陳列「平安京出土の文字資料」 開催（2階／～9.1）
4.26	生涯学習ボランティア「MOKの会」2002年度総会	7.12	祇園祭記念特別上映（MH／～7.14）
4.26	修学旅行夜の体験学習「けまり」（AH）	7.13	「古代日本 文字のある風景」 展開催（4階／～8.18）
4.27	「都の音色」 展演演奏会（京都當道会／AH）	7.14	<祇園祭の宵山に箏曲を聴く夕べ> 開催（AH／7.16）
4.28	KBSかたつむり大作戦に協力（～4.29）	7.16	「第20回上野の森美術館大賞展・関西展」（5階／～7.21）
4.29	「都の音色」 展講演会（久保田氏／AH）	7.20	美術・工芸常設展「京都発！ 漆のメッセージ12」 ギャラリートーク（出品者8人／3階）
5. 2	「伝説の二枚目」 俳優・長谷川一夫特集」 映画上映（MH／～5.26）	7.21	美術・工芸常設展「京都発！ 漆のメッセージ12」 シンポジウム（出品者全員／AH）
5. 3	「都の音色」 展演演奏会（長唄みのり会／AH）	7.23	博物館実習第1組（～7.26）
5. 4	「都の音色」 展講演会（植木氏／AH）	7.27	歴史常設展展示解説（小西氏、南／2階）
5.10	ろうじ店舗博和会「ろうじの古本市」（～5.12）	8. 3	「文字のある風景」 展講演会（東野氏／AH）
5.11	歴史常設展展示解説（鈴木／2階）	8. 8	「上方ルネッサンス2002 楽劇の祭典 映画の中の歌舞伎—上方和事と江戸荒事—」 映画上映（MH／～8.11）
5.14	修学旅行夜の体験学習「京舞」（AH）	8.10	歴史常設展展示解説（土橋／2階）
5.18	生涯学習ボランティア「MOKの会」研修（第1回新会員対象オリエンテーション）	8.15	「ジャパニーズ・ロード・ムービー—股旅—」 映画上映（MH／～9.1）
5.20	文化芸術懇談会（近畿ブロック） 開催（AH）	8.19	梅屋小学校跡地埋蔵文化財調査現地説明会
5.25	「版画家 池田満寿夫の世界」 展開催（4階／～6.30）	8.27	エルサルバドル海外学術調査協力（南／～9.20）
5.30	「名匠たちの青春群像—現代劇篇」 映画上映（MH／～6.30）	8.29	音楽会<ヴィルトゥオーゾの誕生・その2—ピアノノ編>第6夜（AH）
6. 1	人事異動	8.31	「ガンダーラとシルクロードの美術」 展開催（4階／～10.9）
6. 4	修学旅行夜の体験学習「京舞」（AH）	9. 3	歴史特別陳列「江戸時代の平安京研究」 開催（2階／～10.6）
6. 4	生涯学習ボランティア「MOKの会」6月例会	9. 5	博物館実習第2組（～9.6）
6. 6	歴史特別陳列「『源氏物語』に見る季節(1)」 開催（2階／～7.7）	9. 5	「夭折の天才映画監督—山中貞雄特集」 映画上映（MH／～9.22）
6. 6	ろうじ店舗博和会「ろうじの呉美の市」（～6.9）	9.13	ろうじ店舗博和会「ろうじの呉美の市」（～9.15）
6. 8	「池田満寿夫の世界」 展トーク&演奏会（佐藤氏／AH）	9.13	「京都国際学生映画祭2002」 入選12作品上映（AH／～9.16）
6.13	生涯学習ボランティア「MOKの会」9月例会	9.14	生涯学習ボランティア「MOKの会」9月例会
6.13	音楽会<ヴィルトゥオーゾの誕生・その2—ピアノノ編>第5夜（AH）	9.19	修学旅行体験学習「京舞」（AH）

月 日	事 項	月 日	事 項
9.20	修学旅行夜の体験学習「けまり」(AH)	12.17	「川端康成 文豪が愛した美の世界」展開催(4階/～2003.1.19)
9.21	歴史常設展展示解説(植山/2階)	◇	歴史特別陳列「雲林院跡発掘調査の成果」開催(2階/～2003.3.2)
◇	生涯学習ボランティア「MOKの会」SKYふれあいフェスティバル2002 参加(～9.22)	12.19	「文豪が愛した美の世界」展開連映画上映(MH/～2003.1.22)
9.26	「特集 宿命を越える女たち」映画上映(MH/～10.27)	12.21	歴史常設展展示解説(鈴木/2階)
10.2	修学旅行夜の体験学習「京舞」(AH)	2003. 1. 4	ろうじ店舗きた村「お餅つき」
10.5	歴史常設展展示解説(片岡/2階)	1.11	生涯学習ボランティア「MOKの会」1月例会
10.8	「京都の美術・工芸展 風景画ー現実とイメージの交錯」/「工芸にみるー動物のデザイン」(前期)開催(3階/～11.4)	1.12	「文豪が愛した美の世界」展講演会(川端氏/AH)
◇	歴史特別陳列「狩野益信筆 洛中洛外図屏風」開催(2階/～11.10)	1.16	「京都の美術・工芸展 京都府所蔵によるー京の人形」/「池大雅の筆跡 書・書簡・絵画」開催(3階/～2.19)
10.10	音楽会<天才たちの若き日とその晩年>第1夜(AH)	1.18	美術工芸常設展展示解説(佐々木氏/3階)
10.16	修学旅行体験学習「京舞」(6階)	1.23	「男のロマン!ーわが道を行く」映画上映(MH/～2.23)
10.22	「吉川観方と京都文化」展開催(4階/～12.1)	1.25	歴史常設展展示解説(田代氏、南/2階)
10.27	「吉川観方と京都文化」展講演会(切畑氏/AH)	1.30	映像運営委員会(7階サロン)
10.29	展示室運営委員会(AL)	2.1	「京都美術工芸新鋭選抜展～2003新しい波～」開催(4階/～2.16)
10.31	「芸術を記録する」ーアート・フィルム」映画上映(MH/～11.10)	2.6	音楽会<天才たちの若き日とその晩年>第3夜(AH)
11.6	「谷口良三遺作展ー釉彩の美を求めてー」開催(3階/～12.8)	2.7	京都美術工芸新鋭選抜展授賞式(7階サロン)
11.9	歴史常設展展示解説(大塚/2階)	2.10	自衛消防訓練
◇	生涯学習ボランティア「MOKの会」11月例会、見学研修会(天龍寺)	2.15	歴史常設展展示解説(土橋/2階)
11.10	「吉川観方と京都文化」展実演会(山科氏/AH)	2.18	京都市立高倉小学校卒業いけ花展(ろうじ店舗/～2.21)
◇	「谷口良三遺作展」第1回ギャラリートーク(谷口氏/3階)	2.22	アメリカ博物館協会副会長来館
11.12	歴史特別陳列「誓願寺門前図屏風・天保踊図屏風」開催(2階/～12.15)	2.24	エルサルバドル海外学術調査協力(南/～3.16)
11.13	修学旅行の体験学習「京舞」(6階)	2.25	展示室運営委員会(AL)
◇	生涯学習ボランティア「MOKの会」第5回学習ひろば 参加(於:京都府立山城郷土資料館)	2.27	第3回世界水フォーラム開催記念「水に想う」映画上映(MH/～3.30)
11.14	吉川観方と京都文化展開連映画上映(MH/～11.17)	◇	「男も女も装身具」展開催(4階/～3.30)
◇	友の会第2回文化講座「吉川観方と京都文化」展概要説明(藤本/AL)	◇	第3回世界水フォーラム開催記念「ふるさとの水と名画展ー京都府所蔵絵画からー」/併催「和洋古今の水の名品展」開催(3階/～3.30)
11.15	ろうじ店舗博和会「ろうじの呉美の市」(～11.17)	3.1	「男も女も装身具」展体験講座(花岡氏/AH)
11.17	まちなかを歩く日記念トーク(南/土橋/AH)	3.4	京都府監査委員監査
11.20	修学旅行夜の体験学習「京舞」(6階)	◇	歴史特別陳列「鳥瞰図絵師・吉田初三郎の京都名所案内」開催(2階/～4.6)
11.21	「“討入り”から300年ー忠臣蔵と義士外伝特集」映画上映(MH/～12.15)	3.7	ろうじ店舗博和会「ろうじの呉美の市」(～3.9)
◇	ろうじ店舗博和会「ろうじの古本市」(～11.24)	3.8	生涯学習ボランティア「MOKの会」3月総会(7階サロン)
11.23	ろうじの古本市講演会(永井氏/AL)	3.14	「MOKの会」全国ボランティア交流会に参加(京都市コンサートホール)
11.24	「吉川観方と京都文化」展列品解説(藤本/4階)	3.15	歴史常設展展示解説(植山/2階)
◇	「谷口良三遺作展」第2回ギャラリートーク(谷口氏/3階)	3.16	「男も女も装身具」展講演会(日高氏/AH)
12.6	音楽会<天才たちの若き日とその晩年>第2夜(AH)	3.17	フレッツ・サービス設置工事(1階エントランスホール/3.24)
12.10	「工芸にみるー動物のデザイン」(後期)開催(3階/～2003.1.13)	3.22	「男も女も装身具」展列品解説(洲鎌/4階)
◇	特別陳列「木綿・ガラス等の民具」(AE/～2003.3.9)	3.25	第36回京都文化財団役員会(京都府公館)
		3.31	研究紀要『朱雀』第15集刊行
		◇	『2001年度年報』刊行

京都文化博物館2002年度年報

発行日 2004年3月31日
編集・発行 京都府京都文化博物館
〒604-8183 京都市中京区三条高倉
TEL 075-222-0888
FAX 075-222-0889
印刷 (株)燈影舎